

第2期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」
(平成23年度～27年度) 計画策定関係資料

データから見る都筑区の現状と課題



目次

1	人口と世帯数	1
2	将来推計人口	2
3	人口の増減	3
4	居住地の移動と定住意識	4
5	地域での支え合い・近所づきあい	5
6	自治会町内会	6
7	社会貢献活動	7～8
8	心配ごと	9
9	高齢者の現状	10
10	転入高齢者・高齢者施設の状況	11
11	「高齢者実態調査」から	12
12	障害者・外国人の状況	13
13	「横浜市障害者プラン」アンケート調査から	14～15
14	平均寿命	16
15	「健康に関する市民意識調査」から	17～19
16	保護	20
17	地区別データ	21～24
18	現状と課題	25～26

平成22年2月

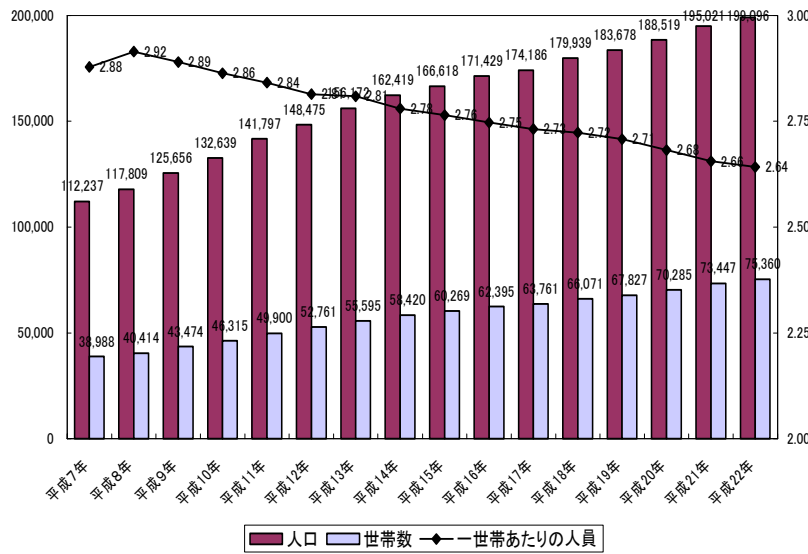
都筑区福祉保健課

人口と世帯数

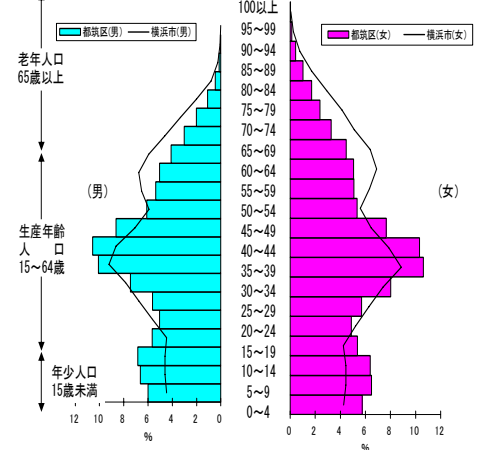
- ・人口は、198,910人（H22.1.1現在）分区以来（平成7年：112,237人）年々増加
- ・世帯数は、75,360人、1世帯あたりの人員は、2,64人（18区中第1位）平成8年以降年々減少
- ・核家族の割合は、泉区に次いで高い
- ・平均年齢は、38,0歳（18区中第1位）
- ・人口構成としては、横浜市全体に比べ、子育て世代の35歳～50歳未満とその子ども世代となる0歳～20歳未満の人口が多く、50歳代以上が少ない（H21.9.30現在）
- ・年齢三区分別人口構成比では、15歳未満が19.1%（18区中第1位）、65歳以上が12.1%（18区中第18位）、推移としては、15歳未満は平成16年をピーク（20.0%）に下降、65歳以上は、年々上昇（H21.9.30現在）

都筑区の人口と世帯数の推移（各年1月1日現在）

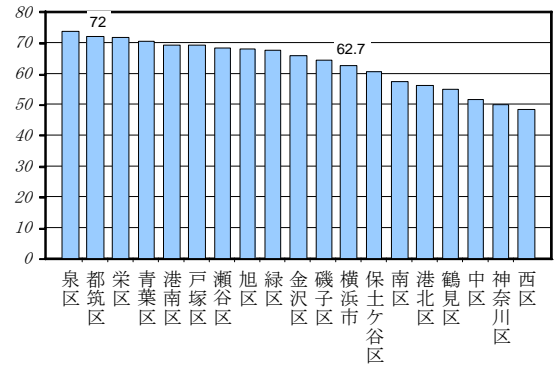
資料：行政運営調整局総務課統計係



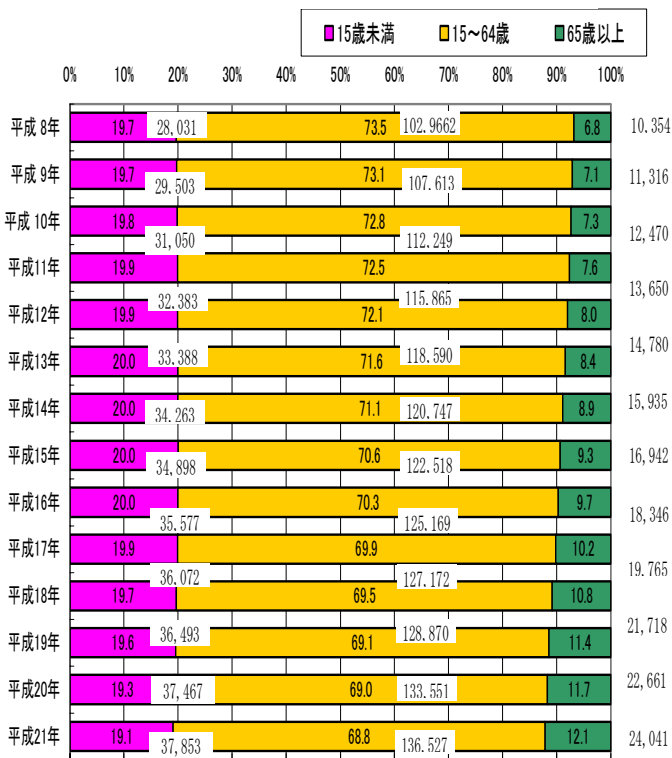
都筑区5歳階級別人口ピラミッド（平成21年9月30日現在）



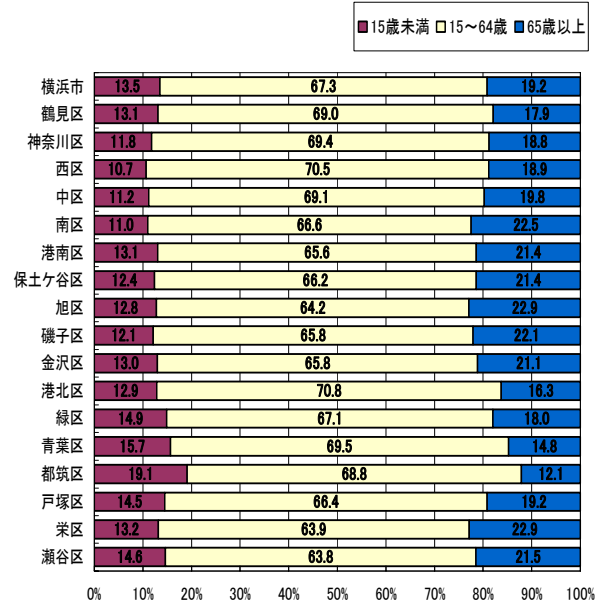
一般世帯に占める核家族の割合



年齢三区分別人口構成比の推移（各年9月30日現在） （単位：人）



年齢三区分別人口構成比（平成21年9月30日現在）



将来推計人口（H17国勢調査による人口を基準に推計）

- ・横浜市の人口は、2020年ごろをピークに減少、都筑区はその後も増加
- ・年齢三区分別人口割合は、15歳未満人口の割合は、減少、65歳以上人口割合は増加
- ・2015年以降、15歳未満人口割合と65歳以上人口割合が逆転

【2010年】人口総数	198,838人		【2030年】	253,597人
15歳未満	36,548人(18.4%)	→減少	31,385人(12.4%)	
65歳以上	25,409人(12.8%)	→増加	55,321人(21.8%)	

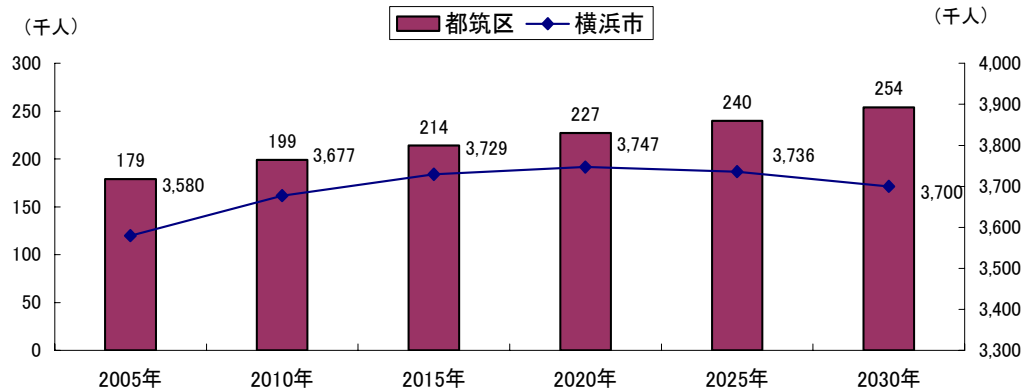
・家族類型別世帯数将来推計

	【2010年】			【2030年】	
夫婦と子供からなる世帯	33,348	45.8%	減	36,917	37.6%
夫婦のみの世帯	14,760	20.2%	増	23,651	24.1%
男親と子供からなる世帯	889	1.2%		1,525	1.5%
女親と子供からなる世帯	3,910	5.3%		5,956	6.0%
単 独 世 帯	15,278	21.0%		23,425	23.8%

将来推計人口（中位推計）

資料：都市経営局政策課

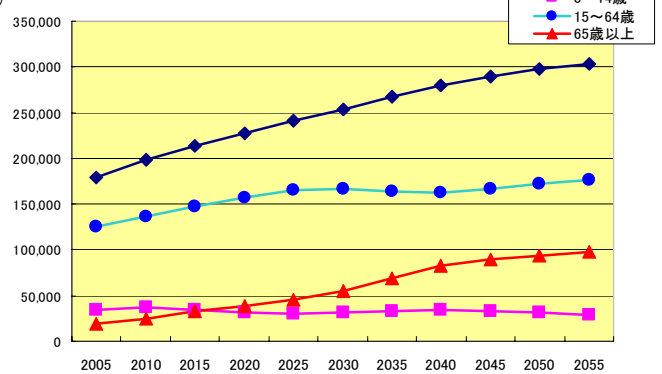
2005年（平成17年）国勢調査による人口を基準人口として、2030年までの推計を行いました。



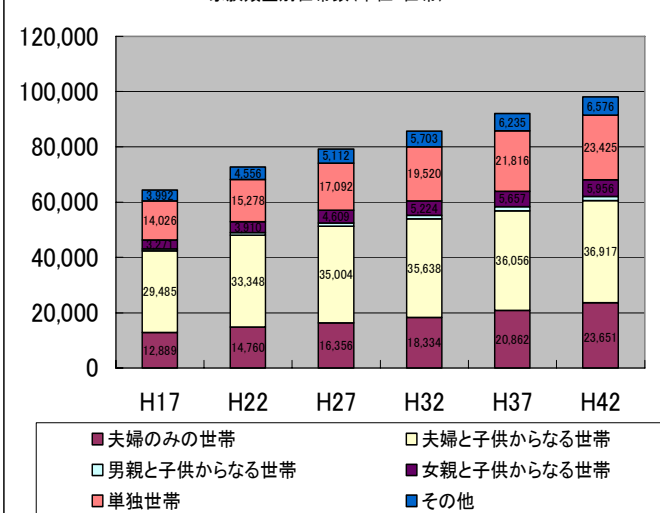
都筑区の家族類型別世帯数将来推計

	H17	H22	H27	H32	H37	H42
夫婦のみの世帯	12,889	14,760	16,356	18,334	20,862	23,651
夫婦と子供からなる世帯	29,485	33,348	35,004	35,638	36,056	36,917
男親と子供からなる世帯	729	889	1,067	1,252	1,406	1,525
女親と子供からなる世帯	3,271	3,910	4,609	5,224	5,657	5,956
単 独 世 帯	14,026	15,278	17,092	19,520	21,816	23,425
そ の 他	3,992	4,556	5,112	5,703	6,235	6,576

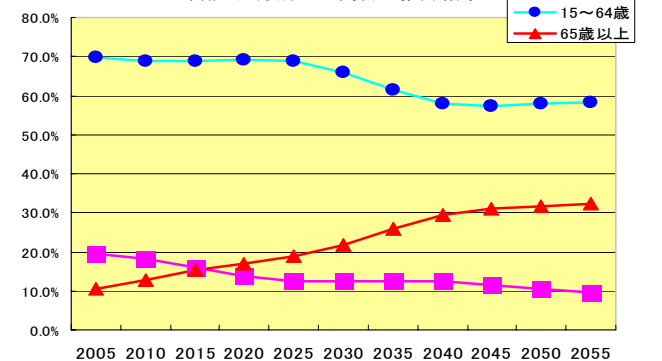
総人口、年齢三区分別人口の推計結果



家族類型別世帯数(単位:世帯)



年齢三区分別人口割合の推計結果



人口の増減

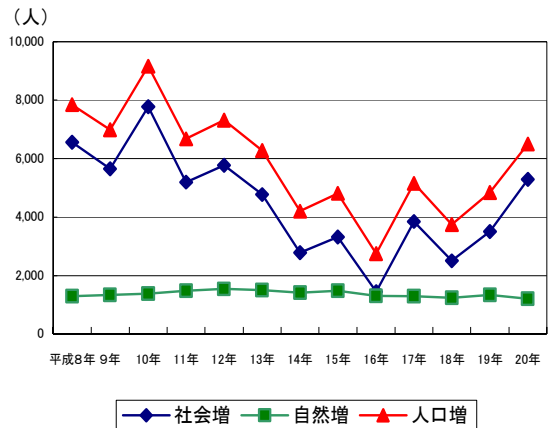
- ・自然増（出生－死亡）は、一定数で推移、社会増（転入－転出）は、自然増を毎年上回り、人口増減数は社会増減数に連動し、年平均6,000人規模で増加
- ・人口増加数及び人口増加率ともに、18区中第1位（H21年中）
- ・平成20年中の転入者数は、16,316人、転出者数は、11,029人で、転入・転出者ともに多い
- ・転入・転出ともに、30歳代が一番多い
- ・居住期間が「1年以上5年未満」が一番高く、人口の流動性が高い（H12国勢調査）

都筑区の社会増減・自然増減の推移

単位：人（△は減）

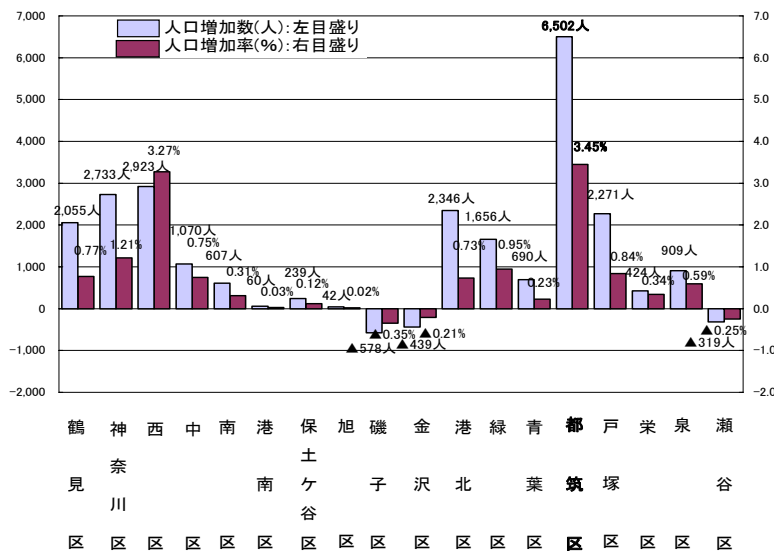
区分 年	社会増減			自然増減			年間 増減
	転入	転出	その他	増減	出生	死亡	
平成8年	16,301	9,794	53	6,560	1,757	466	7,851
9年	15,386	9,768	30	5,648	1,802	467	6,983
10年	17,924	10,182	29	7,771	1,921	534	9,158
11年	15,893	10,671	▲25	5,197	2,037	556	6,678
12年	16,622	10,804	▲37	5,781	2,075	537	7,319
13年	15,776	10,923	▲82	4,771	2,103	603	6,271
14年	14,429	11,686	37	2,780	2,052	633	4,199
15年	15,080	11,794	42	3,328	2,124	641	4,811
16年	13,293	11,856	12	1,449	1,957	649	2,757
17年	15,412	11,545	▲13	3,854	2,000	702	5,152
18年	14,480	12,033	58	2,505	1,964	722	3,747
19年	14,919	11,486	73	3,506	2,065	730	4,841
20年	16,178	10,946	55	5,287	1,985	770	6,502

資料：行政運営調整局総務課統計係
横浜市の人口－平成20年中の人口動態と平成21年1月1日現在の年齢別人口－

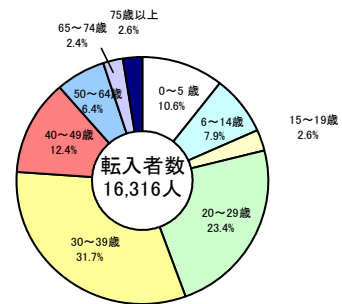


年間区別人口増加数及び増加率 平成21年中：「横浜市人口ニュース」

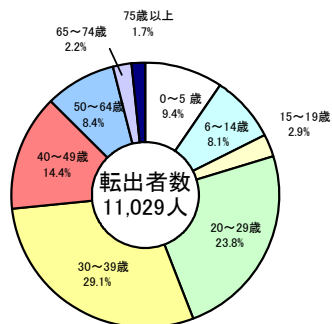
資料：行政運営調整局総務課統計係
横浜市の人口－平成20年中の人口動態と平成21年1月1日現在の年齢別人口－



都筑区転入者・転出者の年代別内訳（平成20年中）



資料：行政運営調整局総務課統計係
横浜市の人口－平成20年中の人口動態と平成21年1月1日現在の年齢別人口－



世帯主の居住期間 平成12年国勢調査

「1年以上5年未満」が38.5%と最も高く、居住期間が延びるに連れて割合が低下している。「20年以上」の割合が25.1である横浜市と比較すると、人口の流動性が高いといえる。

住居の種類・ 住宅の所有の関係	総数 1)	出生時から						
		1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上		
都筑区 総数 / 実数	54,239	1,085	8,146	20,909	9,623	7,631	6,243	
住宅に住む一般世帯	51,442	1,079	7,324	19,487	9,225	7,560	6,198	
住宅以外に住む一般世帯	2,797	6	822	1,422	398	71	45	
都筑区 総数 / 割合(%)	100.0	2.0	15.0	38.5	17.7	14.1	11.5	
住宅に住む一般世帯	100.0	2.1	14.2	37.9	17.9	14.7	12.0	
住宅以外に住む一般世帯	100.0	0.2	29.4	50.8	14.2	2.5	1.6	
横浜市 総数 / 割合(%)	100.0	2.2	11.1	27.4	14.6	16.5	25.1	
住宅に住む一般世帯	100.0	2.3	10.5	26.7	14.4	17.0	26.1	
住宅以外に住む一般世帯	100.0	0.2	27.5	45.0	17.3	4.4	1.9	

1) 世帯主の居住期間「不詳」を含む。

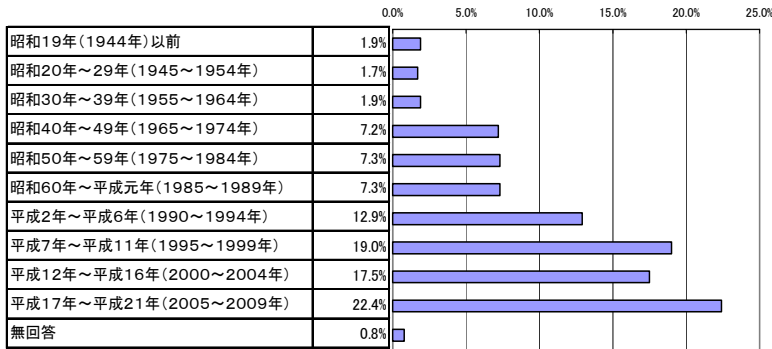
居住地の移動と定住意識 (H21年度区民意識調査)

- ・平成7年以降に住み始めた人が全体の6割弱、平成17年～20年に都筑区に住みはじめた人の割合が最も高い。
- ・都筑区に来る前の居住地は、「市内(都筑区以外の横浜市)」が最も多く、37.9%「生まれてからずっと都筑区に住んでいる」は、7.4%
- ・居住意向としては、8割強が定住意向があり、年代が上がるほど定住意向が高まる。
- ・住まいの形態は、「持ち家(一戸建て)」が36.1%、「持ち家(分譲マンション、共同住宅)」が32.5%で、持ち家の比率が68.6%、次いで「借家(賃貸マンション、アパート、共同住宅)」で、25.1%「持ち家(分譲マンション、共同住宅)」「借家(賃貸マンション、アパート、共同住宅)」といった集合住宅の割合が57.6%(約6割)

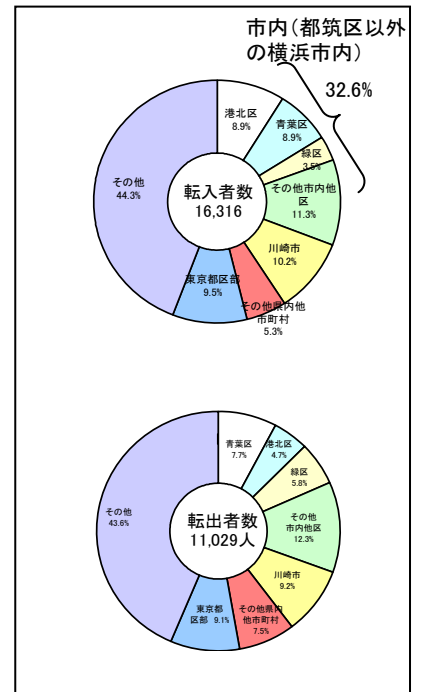
(※平成21年度都筑区区民意識調査 区内在住18歳以上3,000人無作為抽出 1,812人回答(回収率60.4%))

都筑区にいつから住んでいるか

H21都筑区区民意識調査



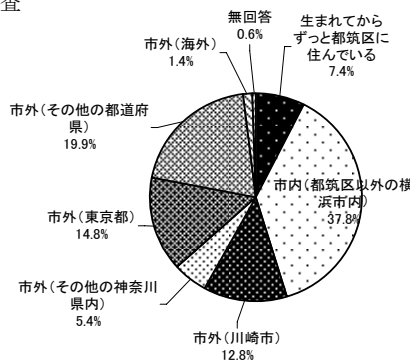
都筑区転入者・転出者の移動前、移動後の住所地 (平成20年中)



都筑区に来る前の居住地

H21都筑区区民意識調査

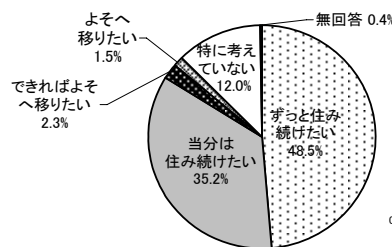
生まれてからずっと都筑区に住んでいる	7.4%
市内(都筑区以外の横浜市)	37.9%
市外(川崎市)	12.8%
市外(その他の神奈川県)	5.4%
市外(東京都)	14.7%
市外(その他の都道府県)	19.9%
市外(海外)	1.4%
無回答	0.6%



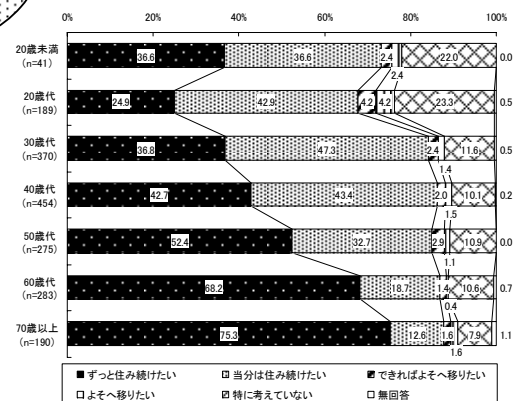
都筑区への居住意向

H21都筑区区民意識調査

ずっと住み続けたい	48.5%
当分は住み続けたい	35.2%
できればよそへ移りたい	2.3%
よそへ移りたい	1.5%
特に考えていない	12.0%
無回答	0.4%



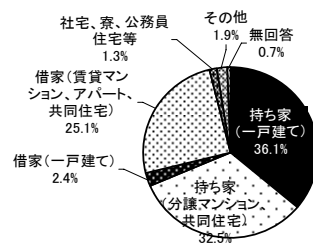
年代別居住意向 H21都筑区区民意識調査



住まいの形態

H21都筑区区民意識調査

持ち家(一戸建て)	36.1%
持ち家(分譲マンション、共同住宅)	32.5%
借家(一戸建て)	2.4%
借家(賃貸マンション、アパート、共同住宅)	25.1%
社宅、寮、公務員住宅等	1.3%
その他	1.9%
無回答	0.7%

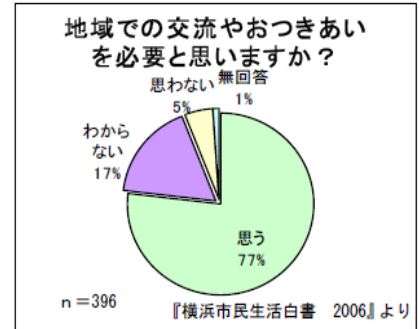
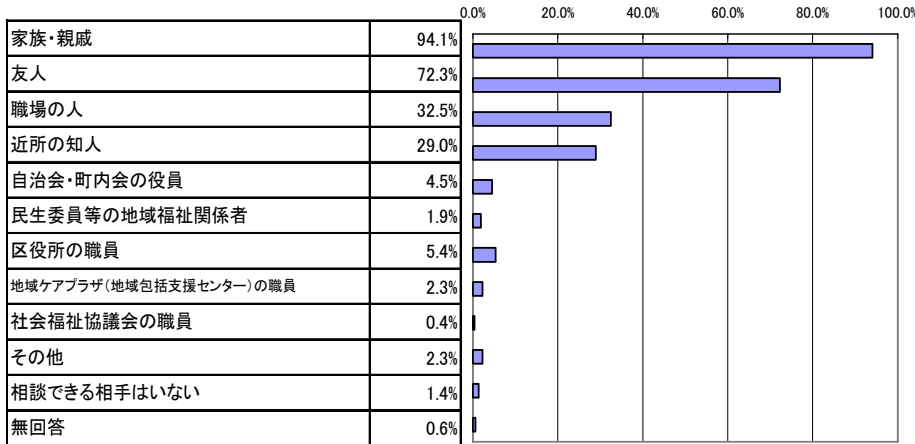


地域での支え合い・近所づきあい

- 日常生活の上相談できる相手は、94.1%が「家族・親戚」、「友人」72.3%、「職場の人」32.5%、「近所の知人」29.0%、日常生活の中で身近な存在が相談相手になっている（H21都筑区区民意識調査）。
- 近所づきあいの状況は、「あいさつをする程度」が44.2%、「立ち話をする程度」が25.1%で「お互いに訪問しあっている」「お互い困ったときには助け合っている」を合わせて約2割
- 「お互い困ったときには助け合っている」は、「50歳代」を除き、年代が上がるに従って増加する傾向、また、「20歳代未満」・「20歳代」は、日ごろの近所付き合いは希薄であり、「お互い困ったときに助け合っている」と「お互いに訪問しあっている」を合わせて約1割となっている。「20歳代」では「ほとんど付き合いは無い」が約2割おり、他の年代に比べ10ポイント以上高い（H21都筑区区民意識調査）
- 「地域の交流やつきあいを必要と思う」が77%（2006横浜市民生活白書）

日常生活で困ったときの相談相手

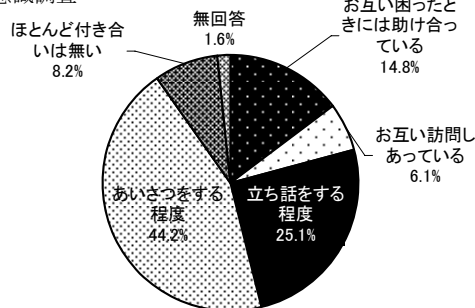
(3つまで選択可能) H21都筑区区民意識調査



日ごろの近所づきあいの状況

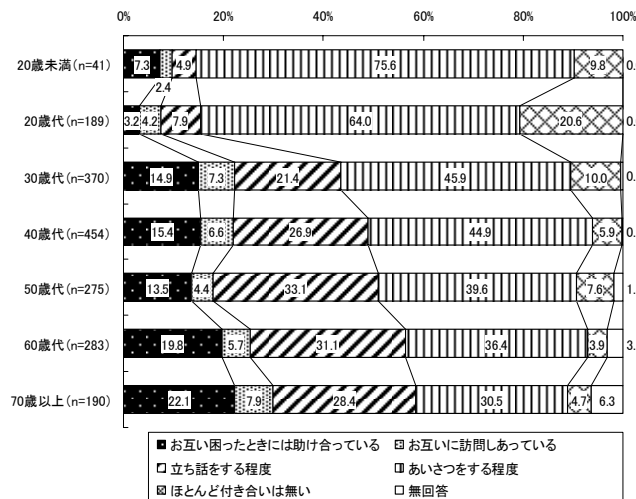
H21都筑区区民意識調査

お互い困ったときには助け合っている	14.8%
お互い訪問しあっている	6.1%
立ち話をする程度	25.1%
あいさつをする程度	44.2%
ほとんど付き合いは無い	8.2%
無回答	1.6%

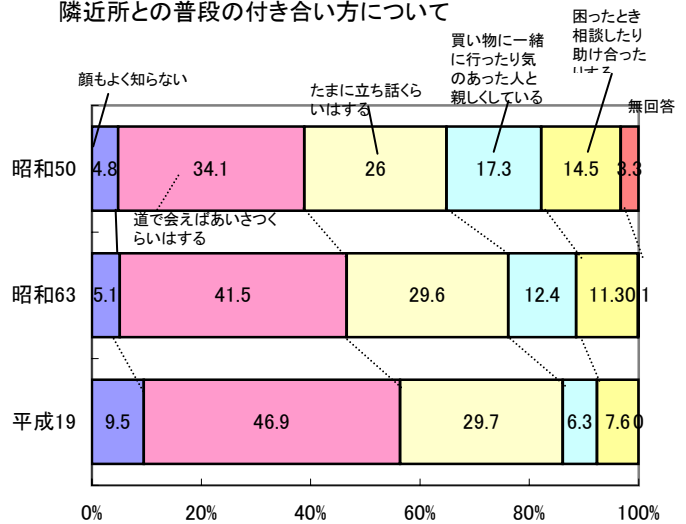


日ごろの近所づきあい(年代別)

H21都筑区区民意識調査



隣近所との普段の付き合い方について

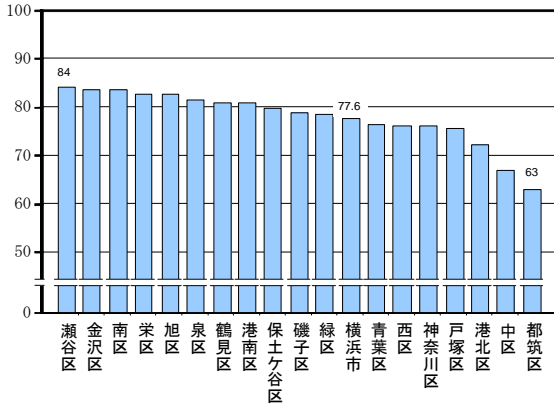


横浜市民生活白書2009

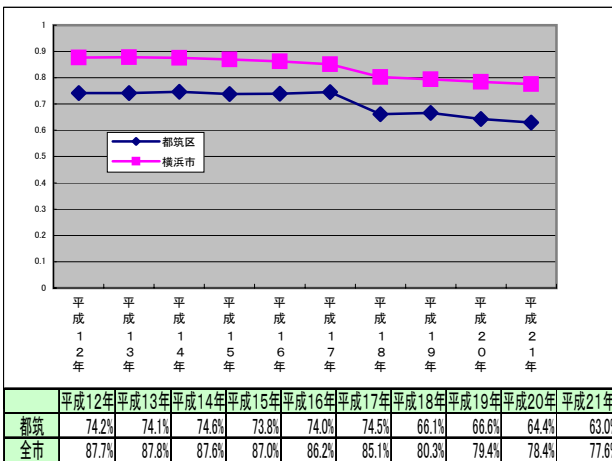
自治会町内会

- 自治会町内会加入率は、63% (H21.4) 18区中第18位 横浜市、都筑区ともに年々低下
- 自治会町内会数は、114団体、加入世帯数は、47,864世帯 (H21.11)
- 概ね年代が上がるに従って加入率が高くなっている。「20歳代」では41.3%だが、「60歳代」では88.0%と2倍以上の開きがある。(H21都筑区区民意識調査)
- 「持ち家(分譲マンション、共同住宅)」「借家(賃貸マンション、アパート、共同住宅)」といった集合住宅で加入率が低い(H21都筑区区民意識調査)
- 居住開始時期が新しくなるのに従って加入率は減少し、「平成17年～平成21年」の時期に住み始めた人の加入率は43.3%(H21都筑区区民意識調査)
- 自治会町内会に加入していない理由で、最も多いのは「特に勧誘されていないから」39.9%(H21都筑区区民意識調査)

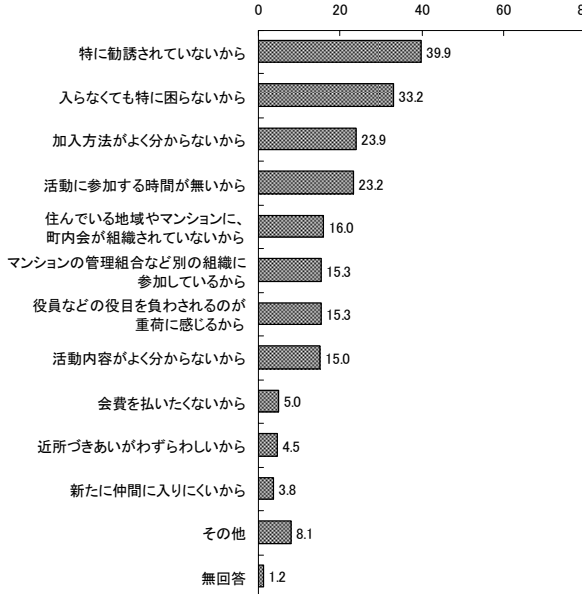
自治会・町内会の加入率 H21.4



自治会・町内会加入率の推移



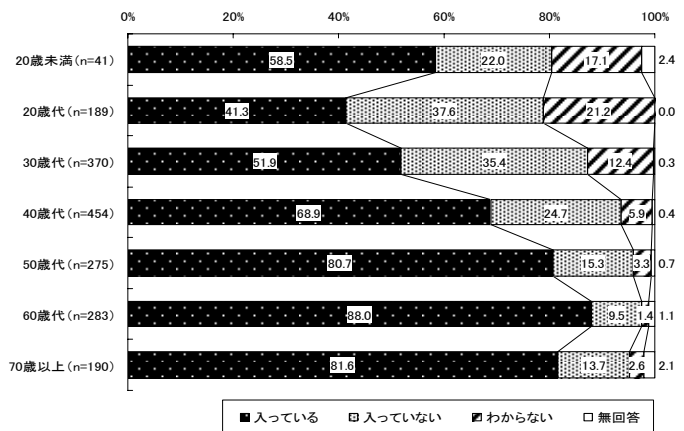
自治会町内会に入っていない理由 H21都筑区区民意識調査(%)



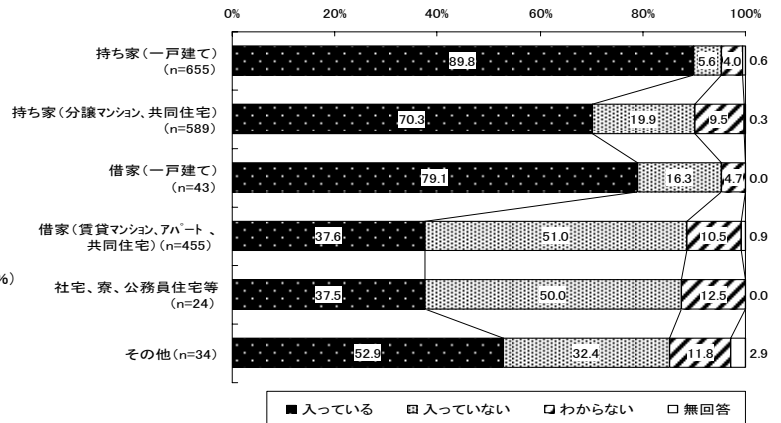
都筑区における自治会町内会団体数・加入世帯数

	団体数	世帯数
連合町内会(15)加入団体	92	40,668
未加入団体	22	7,196
計	114	47,864

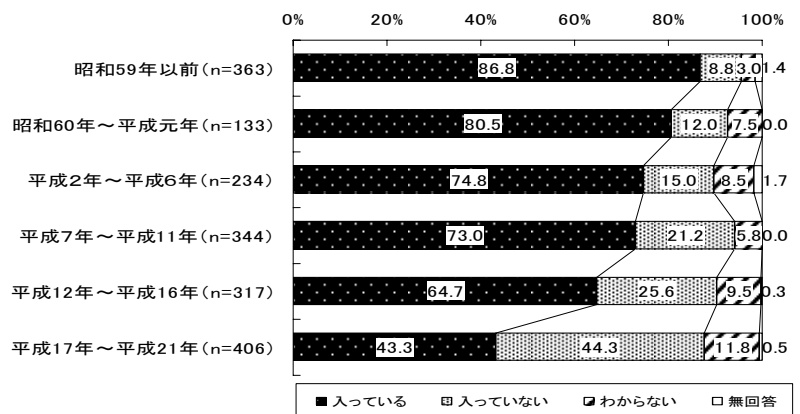
自治会町内会の加入状況(年代別) H21都筑区区民意識調査



自治会町内会の加入状況(住まいの形態別) H21都筑区区民意識調査



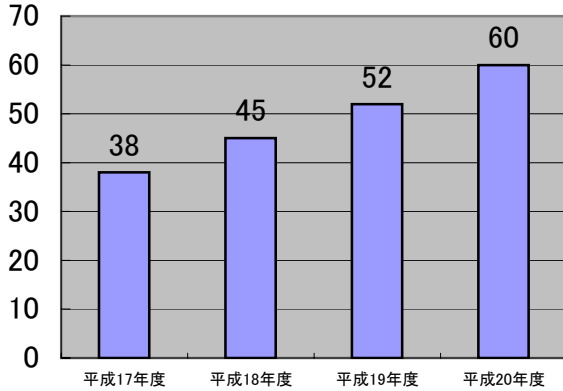
自治会町内会の加入状況(居住開始時期別) H21都筑区区民意識調査



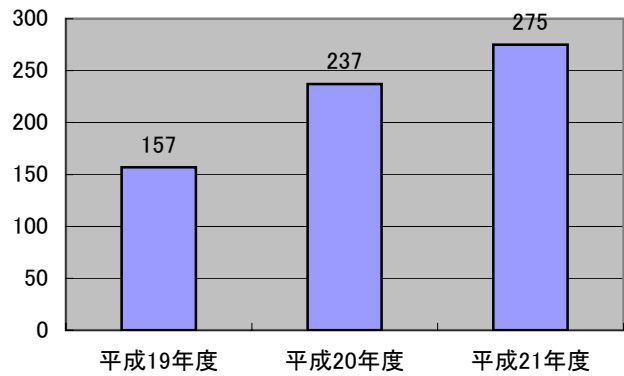
社会貢献活動

- ・区内のNPO法人数は年々増加
- ・区民活動センター団体・グループの登録件数は年々増加
- ・区社協ボランティア登録者数は年々増加
- ・地区社協アンケート調査では、地区社協の課題として「活動者が固定化されていること」37.9%で、市全体35.8%より高くなっている。次いで「地区社協の地域住民への認知度が低い」31.0%で、市全体25.1%より高くなっている。

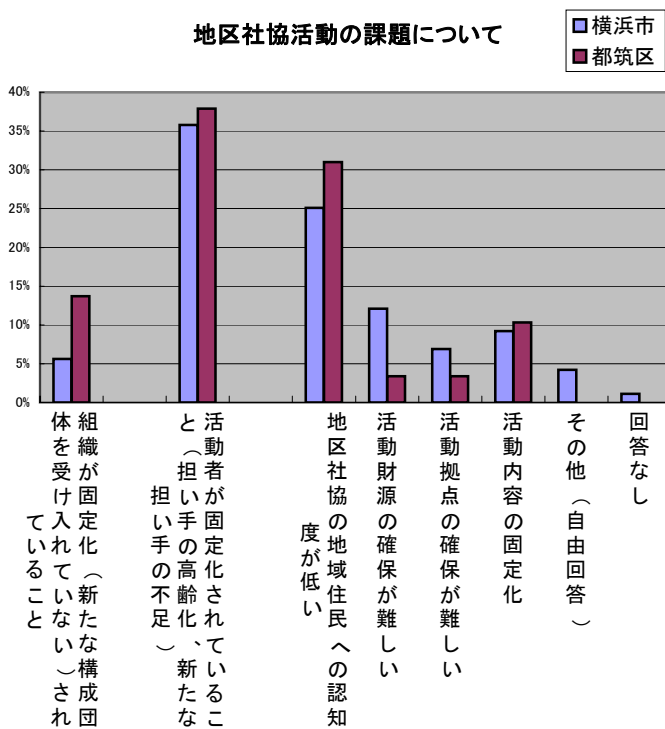
都筑区内NPO法人の推移



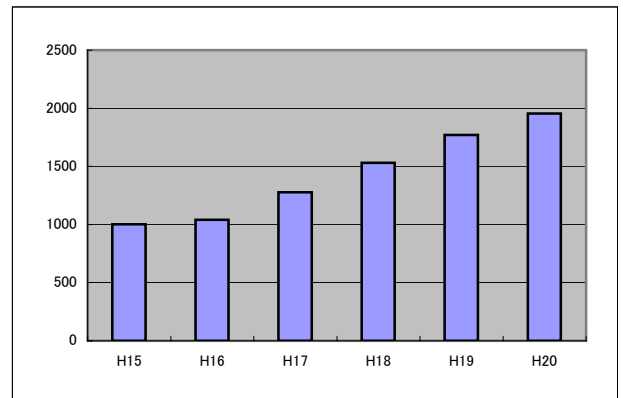
都筑区区民活動センター団体・グループ登録件数推移



地区社協活動の課題について



都筑区社協議会ボランティア登録者の推移



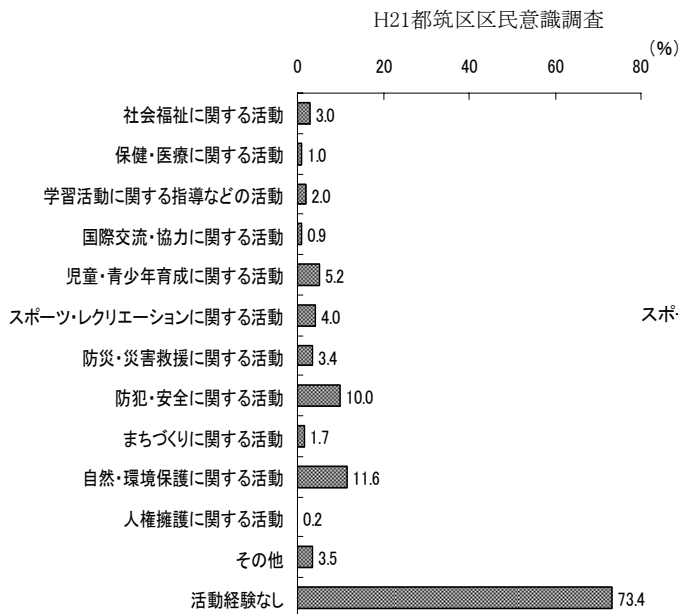
平成20年度地区社協アンケート調査

区内地区社協議会を対象 有効回答数256件（都筑区=15件）

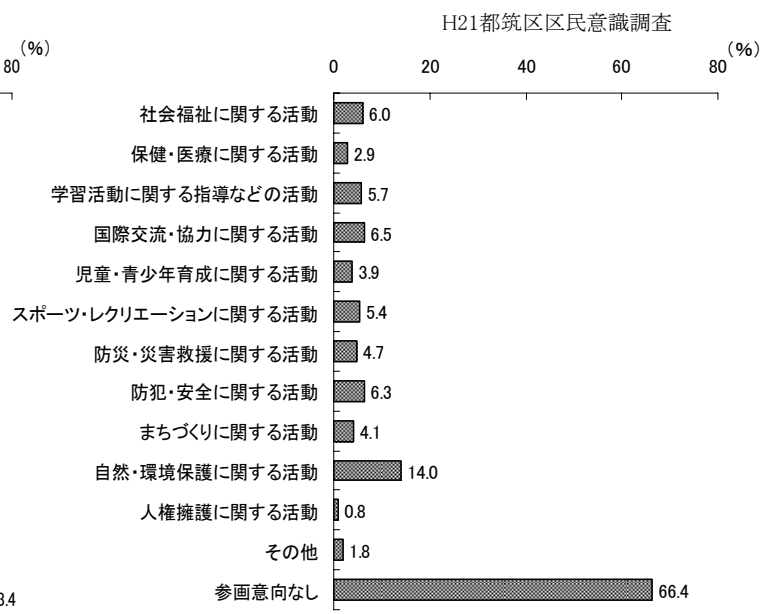
社会貢献活動

- ・過去1年間の社会貢献活動については、「活動経験がある人」26.6%、「活動経験がない人」73.4% (H21都筑区区民意識調査)
- ・活動分野別では、「自然・環境保護に関する活動」11.6%、「防犯・安全に関する活動」10.0% (H21都筑区区民意識調査)
- ・今後の社会貢献活動への参画意向は、「参画したい」33.6%で、「過去1年間に活動経験あり」と比較すると7ポイント増加 (H21都筑区区民意識調査)
- ・分野別にみると、「自然・環境保護に関する活動」が14.0%と最も多く、次いで「国際交流・協力に関する活動」6.5%、「防犯・安全に関する活動」6.3%、「社会福祉に関する活動」6.0% (H21都筑区区民意識調査)
- ・年代別の参画意向は、「参画したい」の率が最も高いのは「20歳未満」の43.9%、次いで「50歳代」の43.6% (H21都筑区区民意識調査)

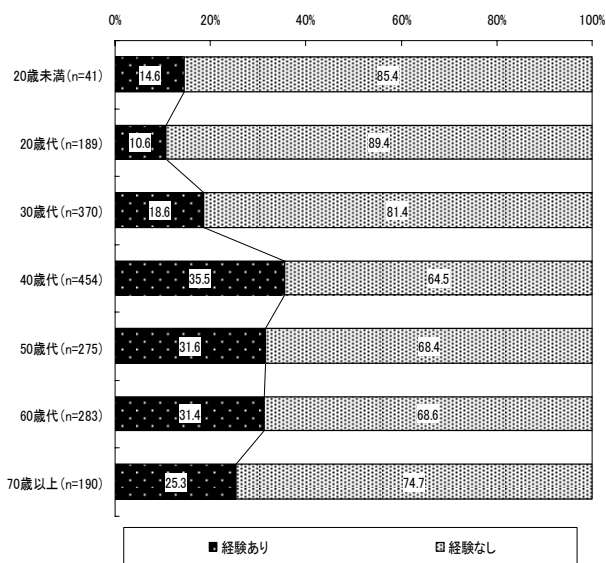
1年以内の社会貢献活動の有無



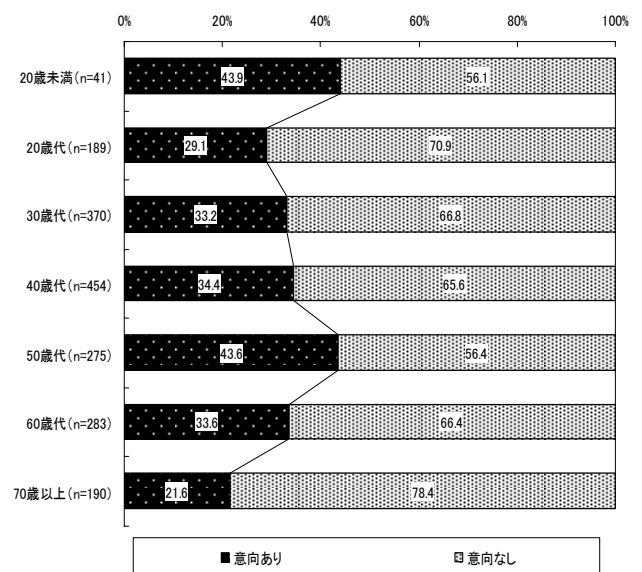
社会貢献活動への参画意向



年代別活動の有無



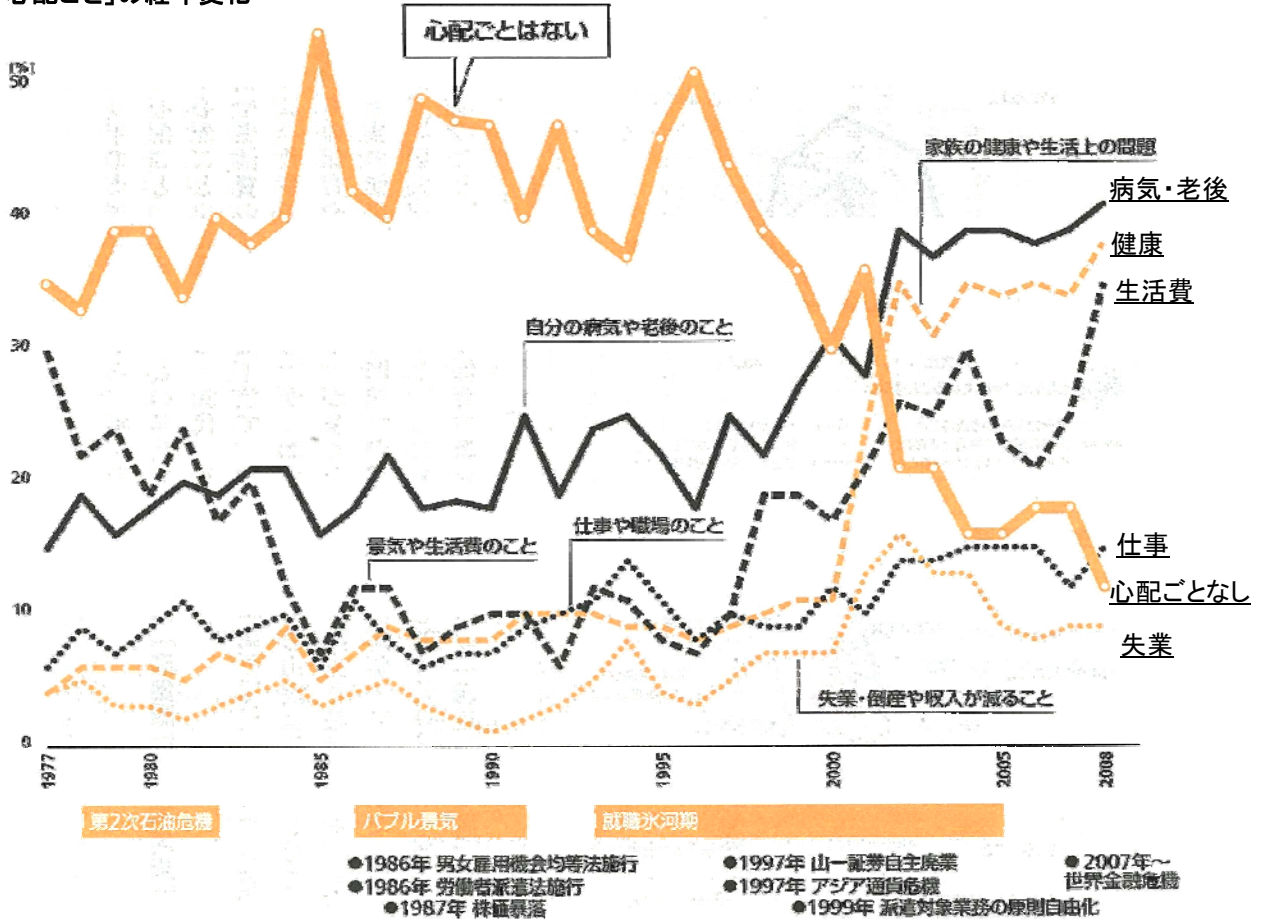
年代別活動の有無



心配ごと

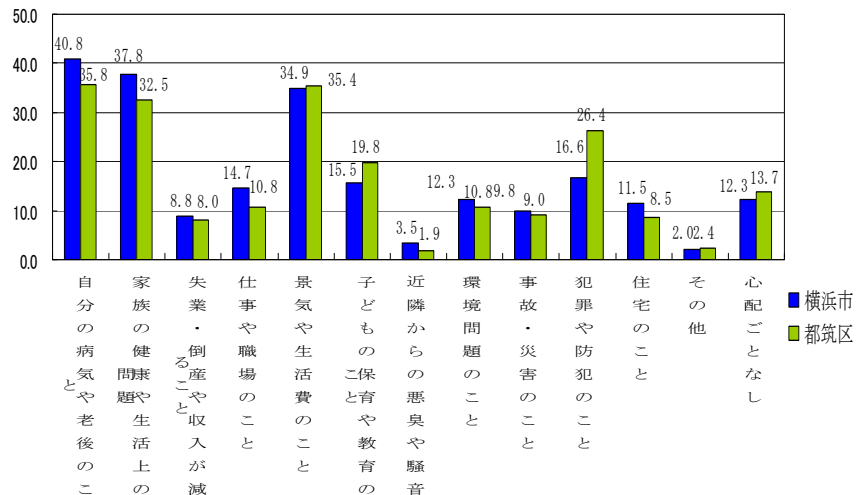
- ・「心配ごとはない」市民は、96年（平成8年）をピークに減少、08年（平成20年）には12%で何らかの生活不安をもつ市民は約9割
- ・「生活の心配ごと」の都筑区では、「自分の病気や老後のこと」35.8%が第1位で、次いで「景気や生活費のこと」が35.4%、「家族の健康や生活上の問題」が32.5%と市全体と同様の傾向を示しているが、「子どもの保育や教育」や「犯罪や防犯のこと」が全体に比べ高い（平成20年横浜市民意識調査）

「心配ごと」の経年変化



(注)「景気や生活費のこと」は1997(平成9)年までは「インフレ・物価高のこと」、「家族の健康や生活上の問題」は2000(平成12)年まで「自分の健康や老後のこと」として扱った。
資料：横浜市民意識調査 横浜市の経済発展

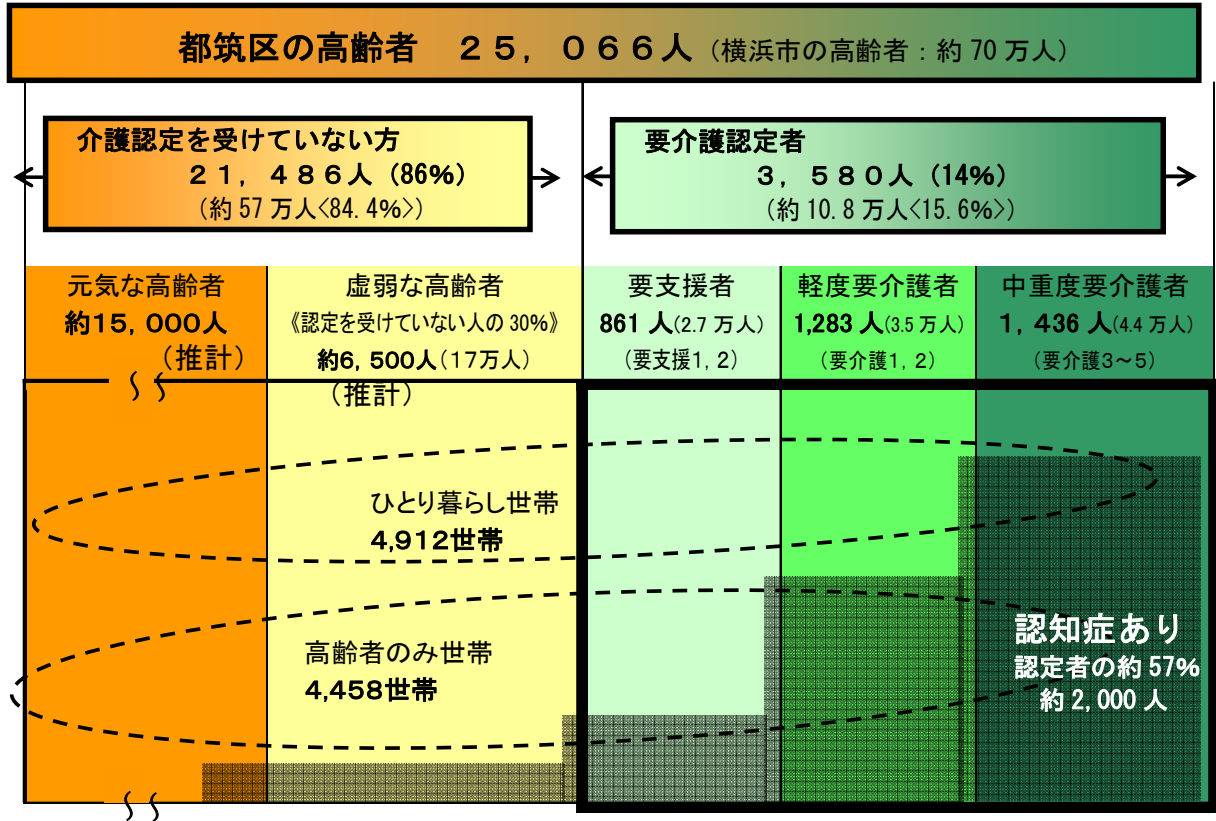
「生活の心配ごと」都筑区の状況



高齢者の現状 (H21.3現在)

- ・高齢者数は、25,066人 (18区中第17位、1位：旭区 58,134人 18位：西区)
- ・高齢化率は、12.1% (横浜市：19.1% 18区中第18位 1位：旭区 23.4%)
- ・要介護認定者数は、3,580人で、高齢者に占める割合は、14% (横浜市：15.5%)
- ・要介護認定者数の推移は年々増加
- ・認知症者数は、認定者の約57% (横浜市：約51%) で、約2,000人
- ・高齢者がいる世帯の割合は21.8%、高齢者単身世帯、高齢者のみ世帯の割合が年々増加

H21.3

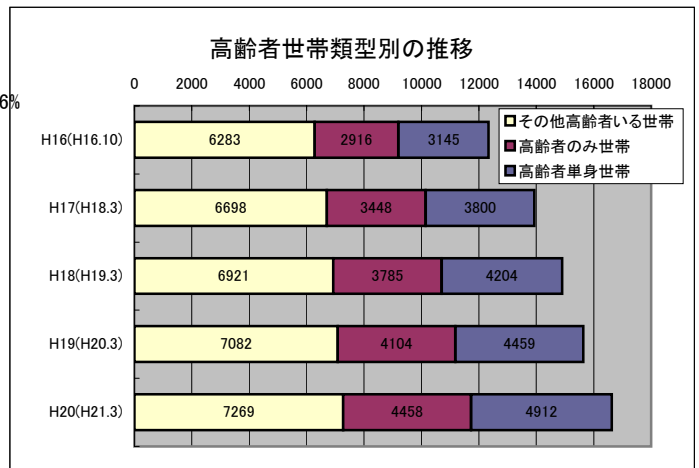
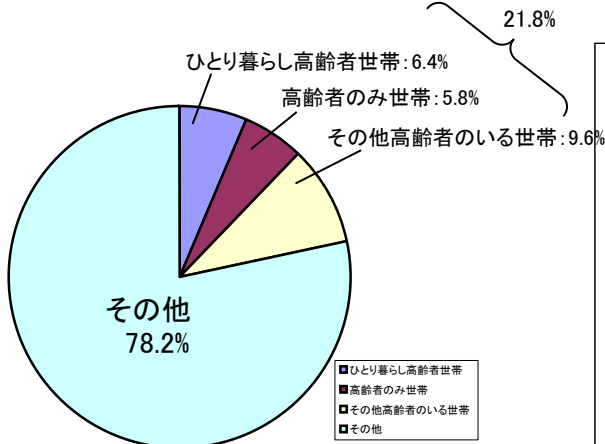
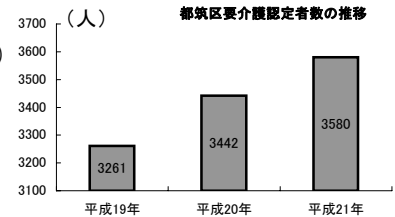


高齢者世帯の状況 (H21.3)

ひとり暮らし高齢者世帯	4,912世帯
高齢者のみ世帯	4,458世帯
その他高齢者のいる世帯	7,269世帯
その他	59,739世帯
区全体	76,378世帯

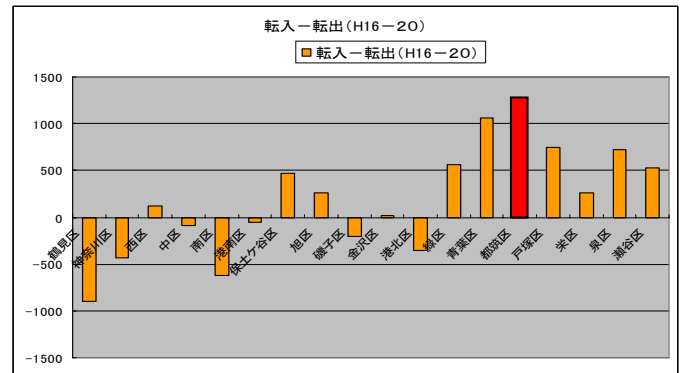
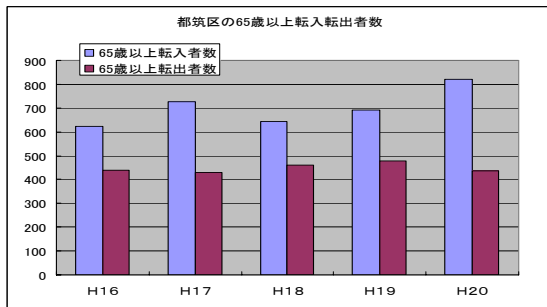
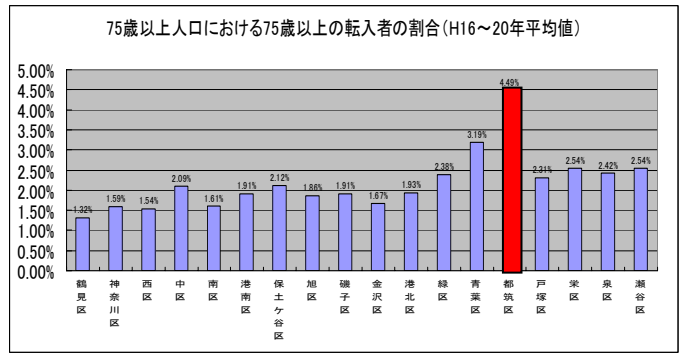
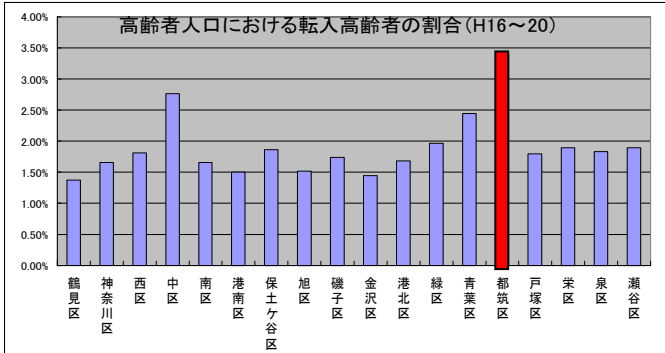
要介護認定者数 (各年3月31日現在)

	都筑区	横浜市
平成19年	3,261	100,391
平成20年	3,442	104,536
平成21年	3,580	108,517

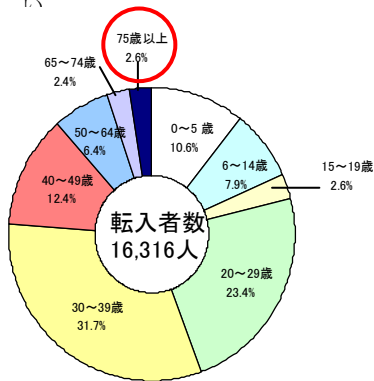


転入高齢者・高齢者施設の状況

- ・65歳以上人口における転入高齢者（65歳以上）の割合は、3.41%（H16～20の5年間平均値 18区中第1位：横浜市平均：1.9%）
- ・65歳以上においても毎年転入超過（転入者－転出者）となっている。5年間の転入超過者数の合計では、18区中第1位
- ・75歳以上人口における転入高齢者（75歳以上）の割合は、4.49%（H16～20の5年間平均値 18区中第1位：横浜市平均：2.1%）
- ・区内の高齢者施設数は、51施設（18区中第4位）、定員数は、3,108人（18区中第3位）

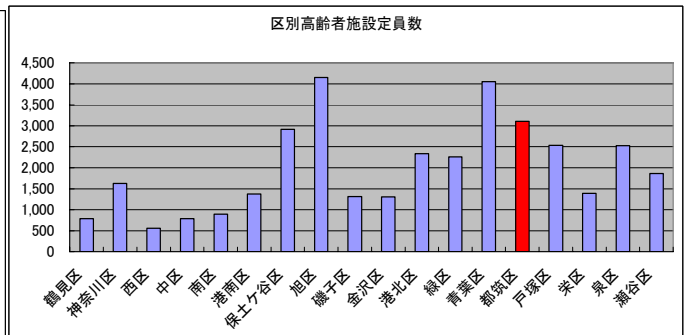
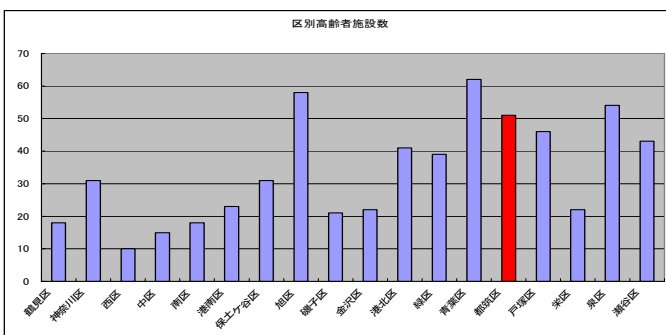


都筑区転入者の年代別内訳(平成20年)
65歳以上よりも75歳以上の割合の方が高い



区別高齢者施設数・定員数

区名	特養			老健		グループホーム		有料老人ホーム		合計		
	従来型	ユニット型	小計	施設数	定員数	施設数	定員数	施設数	定員数	施設数	定員数	
鶴見区	2	0	2	294	1	50	8	99	7	348	18	791
神奈川区	2	3	5	584	4	543	18	288	4	213	31	1,628
西区	3	0	3	236	1	150	4	72	2	98	10	556
中区	2	0	2	114	1	88	5	63	7	522	15	787
南区	6	0	6	451	1	130	8	116	3	198	18	895
港南区	4	1	5	514	3	440	7	114	8	303	23	1,371
保土ヶ谷区	6	4	10	943	5	562	8	107	8	1,301	31	2,913
旭区	10	4	14	1,261	10	1,129	25	423	9	1,339	58	4,152
磯子区	3	2	5	460	3	330	7	117	6	406	21	1,313
金沢区	5	0	5	464	4	582	10	134	3	126	22	1,306
港北区	4	2	6	716	6	692	18	297	11	631	41	2,336
緑区	3	5	8	999	5	540	15	234	11	491	39	2,264
青葉区	4	7	11	990	5	671	16	270	30	2,120	62	4,051
都筑区	2	3	5	425	7	869	24	473	15	1,341	51	3,108
戸塚区	7	0	7	660	8	951	21	348	10	575	46	2,534
栄区	2	4	6	633	3	394	9	148	4	212	22	1,387
泉区	8	5	13	1,158	6	652	33	591	2	124	54	2,525
瀬谷区	3	3	6	561	4	412	28	504	5	389	43	1,866
合計	76	43	119	11,463	77	9,185	264	4,398	145	10,737	605	35,783

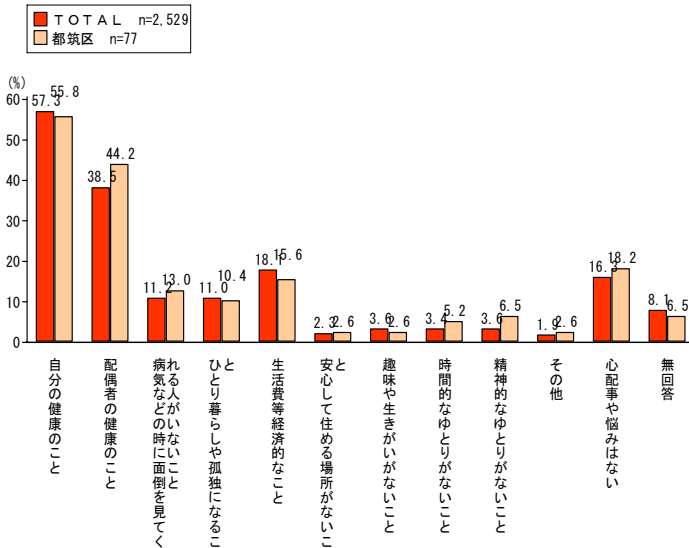


高齢者実態調査から

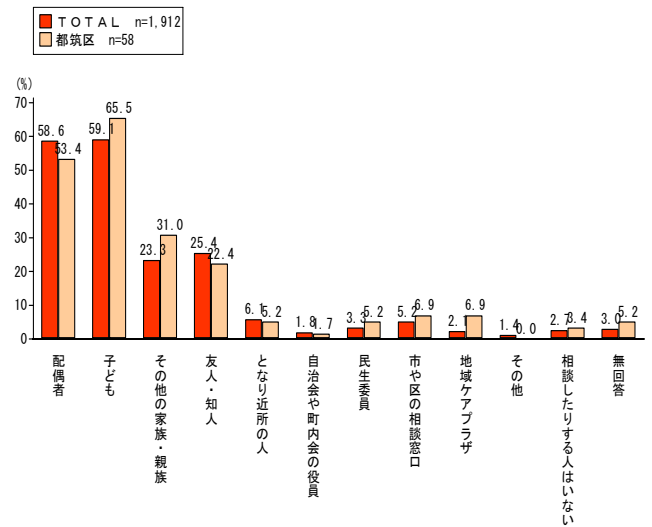
(H19に高齢者一般から4,000人を無作為抽出、回答：市全体=2,529人 都筑区=77人)

- ・心配ごと・悩みでは、「自分の健康のこと」55.8%、「配偶者の健康のこと」44.2%で、区民全体35.8%、32.5%に比べ「健康」に関することが高い、また「心配ごとなし」は18.2%で、区民全体13.7%に比べて高い
- ・相談先としては、身近な「子ども」66.5%、「配偶者」53.4%が多く、「となり近所の人」、「市・区の窓口」「地域ケアプラザ」などは少ない
- ・地域活動の参加状況は、「スポーツ活動」19.5%で最も高く、「参加していない」が4割
- ・サロンの利用意向は、「サロンはないがあつたらぜひ利用したい」23.4%で最も高い
- ・老人クラブの組織率は減少

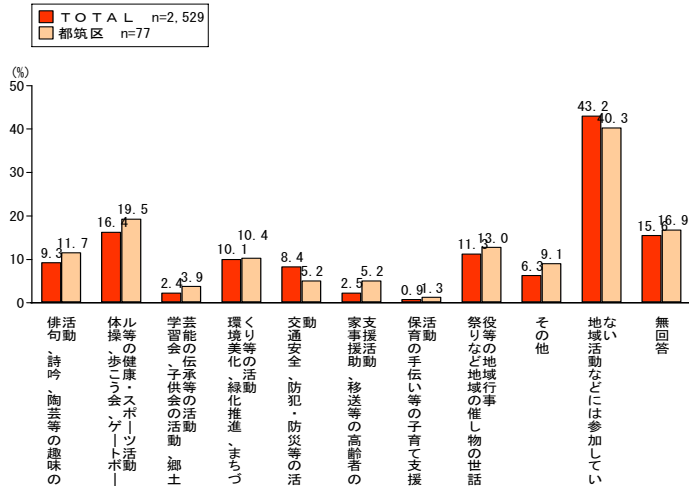
心配ごと・悩み(複数回答)



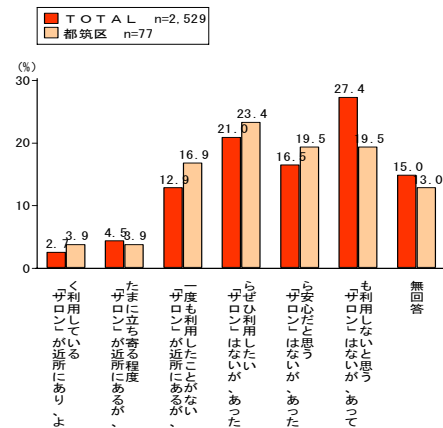
心配ごと・悩みの相談先(複数回答)



1年間の個人・団体で地域活動参加状況(複数回答)



サロンの利用意向



老人クラブの加入状況

(各年度3月31日現在)

	単位老人クラブ数		会員数		組織率	
	都筑区	横浜市	都筑区	横浜市	都筑区	横浜市
平成18年度	55 団体	1,843 団体	3,647 人	125,818 人	12.6 %	14.5 %
平成19年度	56 団体	1,828 団体	3,767 人	124,433 人	13.0 %	14.3 %
平成20年度	57 団体	1,815 団体	3,787 人	123,942 人	11.5 %	13.2 %

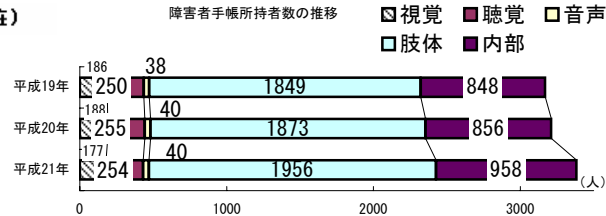
※組織率=会員数/60歳以上人口

障害者・外国人の状況

- ・身体障害者別手帳所持者は、3,385人、療育手帳所持者は、984人、精神保健福祉手帳所持者は、518人（H21.3）いずれも増加傾向
- ・18歳未満では、障害者別手帳所持者より療育手帳所持者のほうが多い
- ・そううつ病、統合失調症が増加傾向
- ・外国人登録者数は、2,761人（H21.3）国籍は、韓国・朝鮮20.4%、中国19.7%で、約4割強

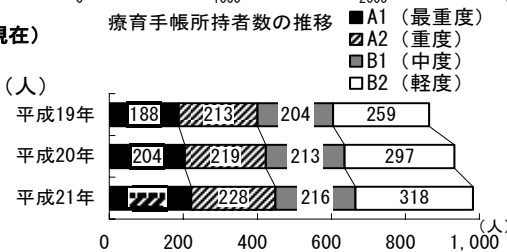
身体障害者（障害別）手帳所持者数の推移（各年3月31日現在）

	平成19年	平成20年	平成21年	(人)
視覚	186	188	177	
聴覚	250	255	254	
音声	38	40	40	
肢体	1,849	1,873	1,956	
内部	848	856	958	
合計	3,171	3,212	3,385	



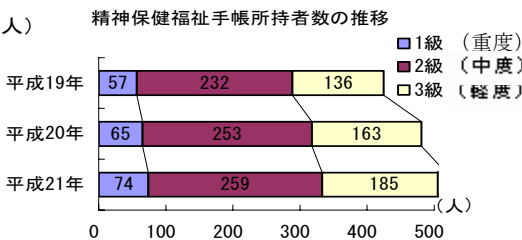
療育手帳所持者数の推移（各年3月31日現在）

	平成19年	平成20年	平成21年	(人)
A1（最重度）	188	204	222	
A2（重度）	213	219	228	
B1（中度）	204	213	216	
B2（軽度）	259	297	318	
合計	864	933	984	



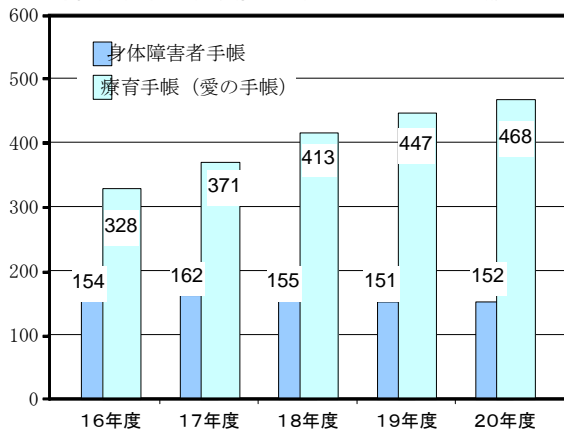
精神保健福祉手帳所持者数の推移（各年3月31日現在）

	平成19年	平成20年	平成21年	(人)
1級（重度）	57	65	74	
2級（中重度）	232	253	259	
3級（軽度）	136	163	185	
合計	425	481	518	



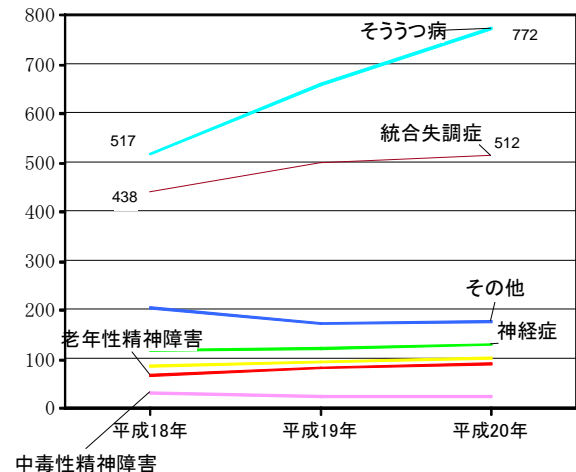
横浜市統計書

身体障害者手帳、療育手帳の交付状況（18歳未満）



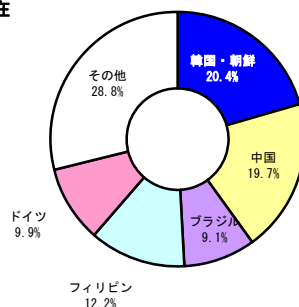
横浜市統計書

精神障害者等基礎把握数



都筑区外国人登録者数 平成21年3月31日現在

国名	登録者数
韓国・朝鮮	564
中国	543
ブラジル	250
フィリピン	338
ドイツ	272
その他	794
総数	2,761



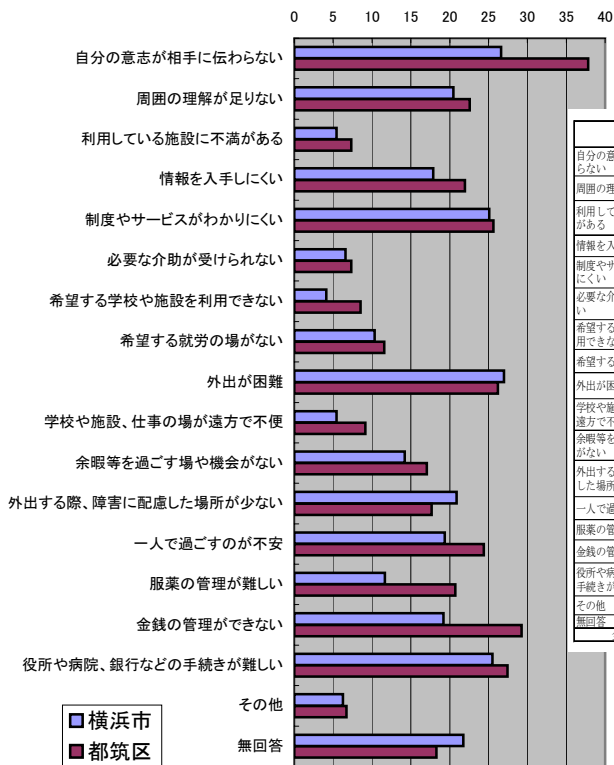
「横浜市障害者プラン（第2期）」策定のためのアンケート調査から

- ・ 困ることは、「自分の意志が相手に伝わらない」37.8%、で市全体より10ポイント高い
- ・ 相談する人としては、「家族」82.5%で、区役所等の相談機関は低い
- ・ 将来の不安としては、「十分な収入があるか」42.1%、「高齢になったときの健康や体力」39.6%「災害時の安全確保」32.3%などで、「不安はない」3.0%

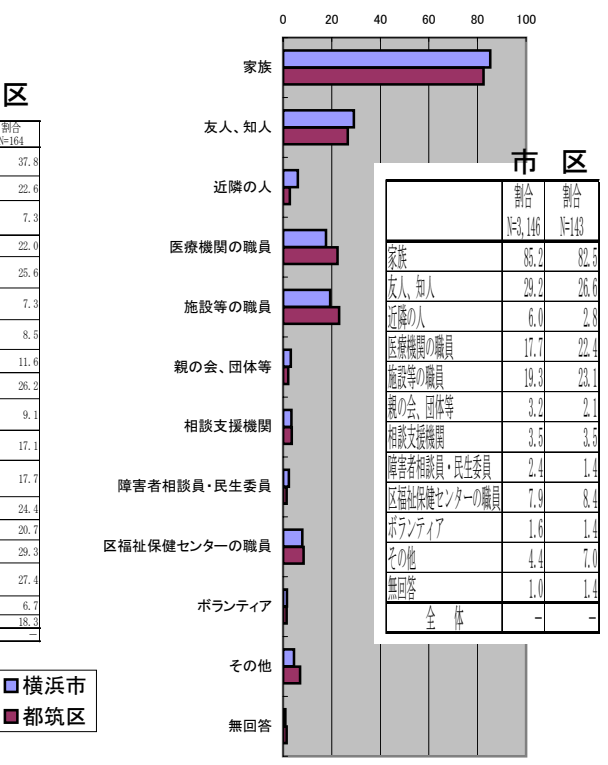
※障害者本人・家族7,000人を対象とし、3,869人(52.7%)から回答(都筑区民=164人)

生活している中で、どのようなことで困ることがありますか(複数回答)

身近で相談する人は誰ですか(複数回答)

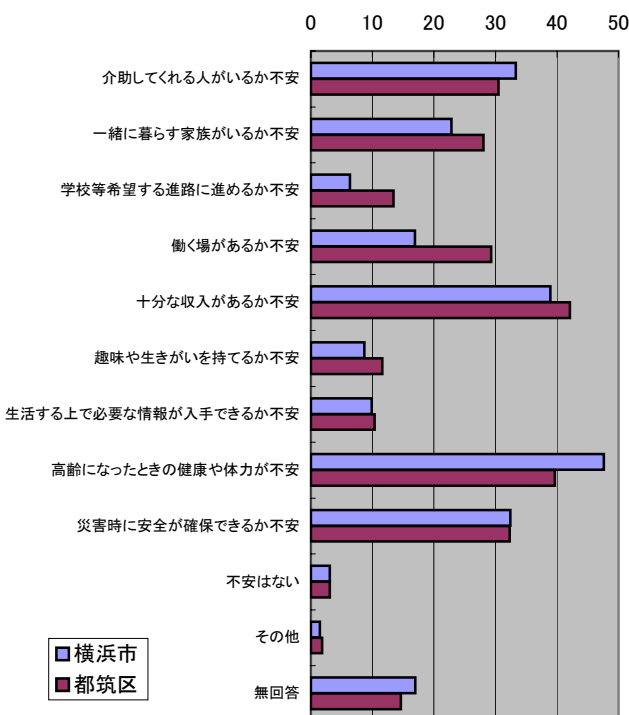


	割合 N=3,598	割合 N=164
自分の意志が相手に伝わらない	26.6	37.8
周囲の理解が足りない	20.5	22.6
利用している施設に不満がある	5.4	7.3
情報を入りにくい	17.9	22.0
制度やサービスがわかりにくい	25.1	25.6
必要な介助が受けられない	6.6	7.3
希望する学校や施設を利用できない	4.1	8.5
希望する就労の場がない	10.3	11.6
外出が困難	27.0	26.2
学校や施設、仕事の場が遠方で不便	5.4	9.1
余暇を過ごす場や機会がない	14.2	17.1
外出する際、障害に配慮した場所が少ない	20.9	17.7
一人で過ごすのが不安	19.3	24.4
服薬の管理が難しい	11.7	20.7
金銭の管理ができない	19.2	29.3
役所や病院、銀行などの手続きが難しい	25.5	27.4
その他	6.3	6.7
無回答	21.8	18.3
全 体	-	-



	割合 N=3,146	割合 N=143
家族	85.2	82.5
友人、知人	29.2	26.6
近隣の人	6.0	2.8
医療機関の職員	17.7	22.4
施設等の職員	19.3	23.1
親の会、団体等	3.2	2.1
相談支援機関	3.5	3.3
障害者相談員・民生委員	2.4	1.4
区福祉保健センターの職員	7.9	8.4
ボランティア	1.6	1.4
その他	4.4	7.0
無回答	1.0	1.4
全 体	-	-

将来とくに不安を感じること(複数回答)



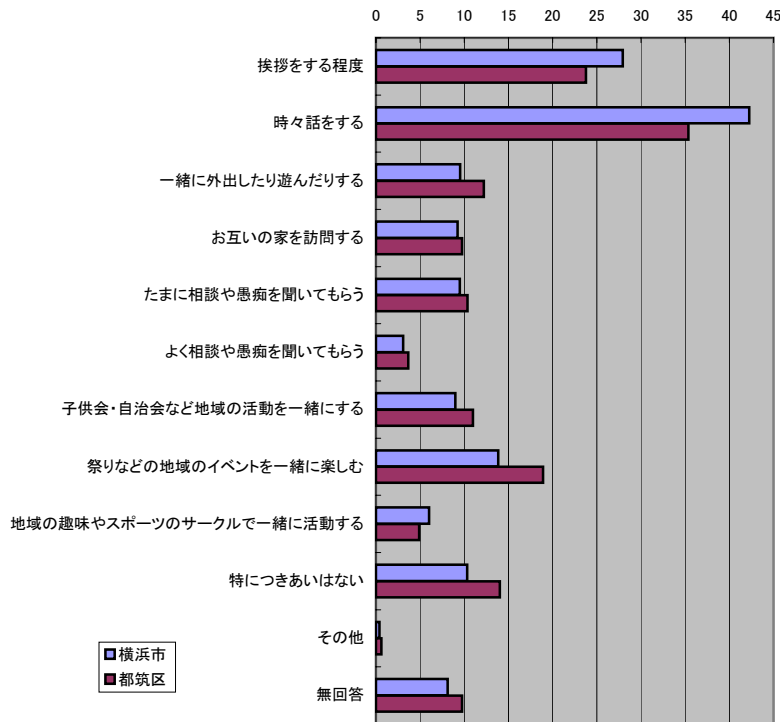
	割合 N=3,598	割合 N=164
介助してくれる人がいるか不安	33.3	30.5
一緒に暮らす家族がいるか不安	22.8	28.0
学校等希望する進路に進めるか不安	6.3	13.4
働く場があるか不安	16.9	29.3
十分な収入があるか不安	38.9	42.1
趣味や生きがいを持てるか不安	8.7	11.6
生活する上で必要な情報が入手できるか不安	9.9	10.4
高齢になったときの健康や体力が不安	47.6	39.6
災害時に安全が確保できるか不安	32.4	32.3
不安はない	3.1	3.0
その他	1.5	1.8
無回答	17.0	14.6
全 体	-	-

「横浜市障害者プラン（第2期）」策定のためのアンケート調査から

- ・地域との付き合いについては、「時々話をする」35.4%、「挨拶をする程度」23.8%、「地域イベントを楽しむ」18.9%で、「付き合いがない」14.0%
- ・今後の地域との付き合いの意向については、「地域イベントを楽しむ」「スポーツ等一緒に活動する」「子ども会・自治会活動を一緒にする」等現在に比べ割合が多くなっている

※障害者本人・家族7,000人を対象とし、3,869人(52.7%)から回答(都筑区民=164人)

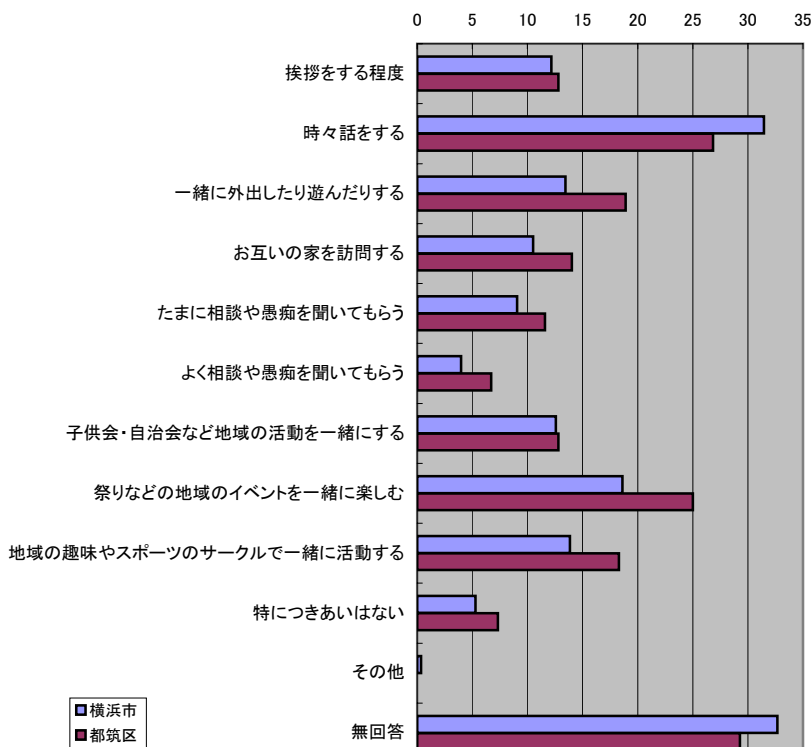
現在、地域の人とどのようなお付き合いをしていますか(複数回答)



市 区

	割合 N=3,598	割合 N=164
挨拶をする程度	27.9	23.8
時々話をする	42.2	35.4
一緒に外出したり遊んだりする	9.5	12.2
お互いの家を訪問する	9.2	9.8
たまに相談や愚痴を聞いてもらう	9.5	10.4
よく相談や愚痴を聞いてもらう	3.1	3.7
子供会・自治会など地域の活動を一緒にする	9.0	11.0
祭りなどの地域のイベントを一緒に楽しむ	13.8	18.9
地域の趣味やスポーツのサークルで一緒に活動する	6.0	4.9
特につきあいはない	10.3	14.0
その他	0.4	0.6
無回答	8.1	9.8
全 体	-	-

今後、地域の人とどのようなお付き合いをしていきたいと思いますか(複数回答)



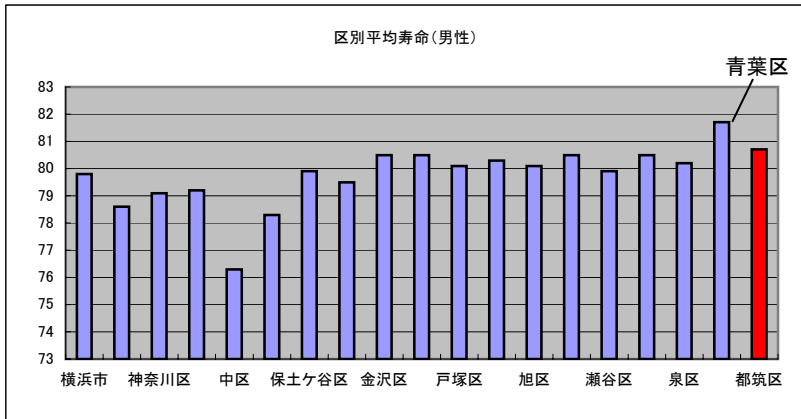
市 区

	割合 N=3,598	割合 N=164
挨拶をする程度	12.2	12.8
時々話をする	31.5	26.8
一緒に外出したり遊んだりする	13.5	18.9
お互いの家を訪問する	10.5	14.0
たまに相談や愚痴を聞いてもらう	9.1	11.6
よく相談や愚痴を聞いてもらう	4.0	6.7
子供会・自治会など地域の活動を一緒にする	12.6	12.8
祭りなどの地域のイベントを一緒に楽しむ	18.6	25.0
地域の趣味やスポーツのサークルで一緒に活動する	13.8	18.3
特につきあいはない	5.3	7.3
その他	0.4	0.0
無回答	32.7	29.3
全 体	-	-

平均寿命

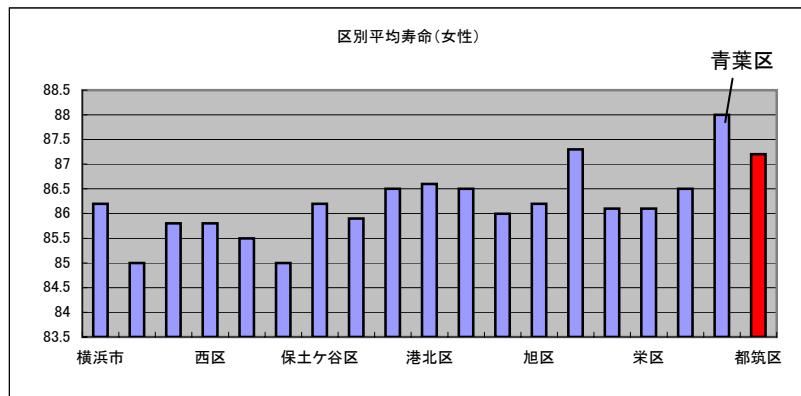
- ・ 区別の平均寿命 男性は、80.7歳で18区中第2位、女性は、87.2歳で18区中第3位 (H17)
- ・ 市区町村別平均寿命 (上位30位) 男性は、全国で第15位
- ・ 自殺者は、年間24人 (3年間平均)、人口10万人対で13.3人で18区中18位

区別平均寿命(平成17年)



横浜市	79.8
鶴見区	78.6
神奈川区	79.1
西区	79.2
中区	76.3
南区	78.3
保土ヶ谷区	79.9
磯子区	79.5
金沢区	80.5
港北区	80.5
戸塚区	80.1
港南区	80.3
旭区	80.1
緑区	80.5
瀬谷区	79.9
栄区	80.5
泉区	80.2
青葉区	81.7
都筑区	80.7

第2位



横浜市	86.2
鶴見区	85
神奈川区	85.8
西区	85.8
中区	85.5
南区	85
保土ヶ谷区	86.2
磯子区	85.9
金沢区	86.5
港北区	86.6
戸塚区	86.5
港南区	86
旭区	86.2
緑区	87.3
瀬谷区	86.1
栄区	86.1
泉区	86.5
青葉区	88
都筑区	87.2

第3位

市区町村別平均寿命 (上位30市区町村)

位	男			女		
	都道府県	市区町村	平均寿命	都道府県	市区町村	平均寿命
1	神奈川県	横浜市 青葉区	81.7	沖縄県	中頭郡 北中城村	89.3
2	神奈川県	川崎市 麻生区	81.7	兵庫県	川辺郡 猪名川町	88.7
3	東京都	三鷹市	81.4	長野県	下伊那郡 高森町	88.5
4	東京都	国分寺市	81.4	沖縄県	豊見城市	88.5
5	東京都	練馬区	81.2	沖縄県	南城市	88.3
6	長野県	上伊那郡 箕輪町	81.1	長野県	上伊那郡 宮田村	88.2
7	長野県	上高井郡 小布施町	81	神奈川県	横浜市 青葉区	88
8	東京都	小金井市	81	北海道	有珠郡 壮瞥町	88
9	熊本県	上益城郡 益城町	80.9	沖縄県	中頭郡 北谷町	87.8
10	東京都	目黒区	80.9	神奈川県	足柄上郡 開成町	87.7
11	宮城県	仙台市 泉区	80.8	沖縄県	国頭郡 今帰仁村	87.7
12	東京都	杉並区	80.7	長野県	下伊那郡 豊丘村	87.7
13	長野県	駒ヶ根市	80.7	沖縄県	島尻郡 南風原町	87.7
14	愛知県	日進市	80.7	沖縄県	中頭郡 中城村	87.7
15	神奈川県	横浜市 都筑区	80.7	沖縄県	中頭郡 西原町	87.6
16	東京都	世田谷区	80.6	熊本県	菊池郡 菊陽町	87.5
17	神奈川県	横浜市 緑区	80.5	沖縄県	島尻郡 久米島町	87.5
18	神奈川県	横浜市 金沢区	80.5	石川県	石川郡 野々市町	87.5
19	滋賀県	守山市	80.5	長野県	下伊那郡 清内路村	87.5
20	愛知県	愛知郡 長久手町	80.5	長野県	下伊那郡 売木村	87.5
21	長野県	上伊那郡 飯島町	80.5	山口県	熊毛郡 平生町	87.4
22	東京都	武蔵野市	80.5	島根県	雲南市	87.4
23	神奈川県	横浜市 栄区	80.5	沖縄県	国頭郡 本部町	87.4
24	東京都	東久留米市	80.5	北海道	河東郡 音更町	87.4
25	岐阜県	可児市	80.5	沖縄県	島尻郡 伊是名村	87.4
26	神奈川県	横浜市 港北区	80.5	佐賀県	三養基郡 基山町	87.3
27	東京都	渋谷区	80.5	神奈川県	川崎市 麻生区	87.3
28	大阪府	箕面市	80.5	神奈川県	横浜市 緑区	87.3
29	東京都	日野市	80.5	広島県	広島市 佐伯区	87.3
30	静岡県	藤枝市	80.5	沖縄県	島尻郡 渡嘉敷村	87.3

区別自殺者数

区別自殺者数(平成18~20年平均) 区別自殺死亡率(平成18~20年平均)

順位	区名	人数
1	港北	64
2	南	53
3	鶴見	52
4	中	50
5	青葉	48
6	戸塚	45
7	神奈川	44
8	旭	44
9	金沢	42
10	港南	42
11	保土ヶ谷	38
12	磯子	32
13	緑	27
14	瀬谷	27
15	栄	27
16	都筑	24
17	泉	23
18	西	18

(人)

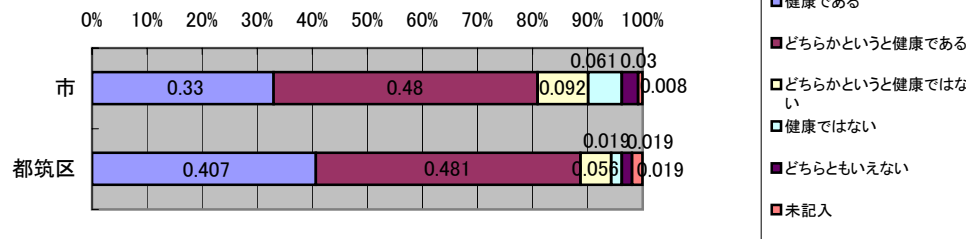
順位	区名	人数
1	中	35.3
2	南	27.4
3	栄	21.6
4	瀬谷	21.2
5	西	20.5
6	港北	20.3
7	金沢	20.0
8	神奈川	19.7
9	鶴見	19.7
10	磯子	19.6
11	港南	18.8
12	保土ヶ谷	18.6
13	旭	17.6
14	戸塚	16.8
15	青葉	16.2
16	緑	15.7
17	泉	15.2
18	都筑	13.3

(人口10万人対)

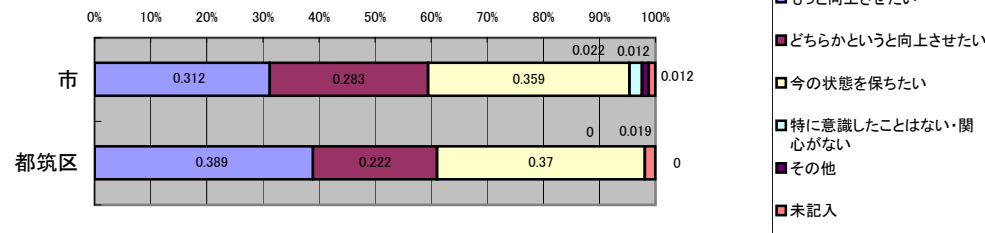
健康に関する市民意識調査 (H20) から

・20歳以上の市民3,000人(男性1,500人及び女性1,500人をそれぞれ年代別は無作為抽出、うち1,321人が回答(都筑区民=54人
男性=18人、女性=34人、不明2人)

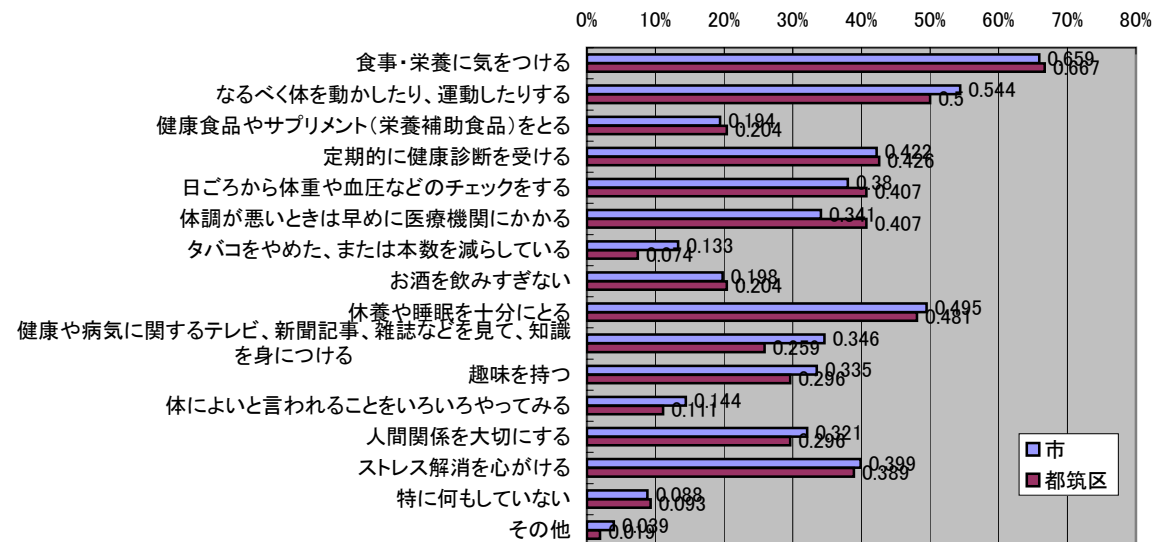
健康状態はいかがですか



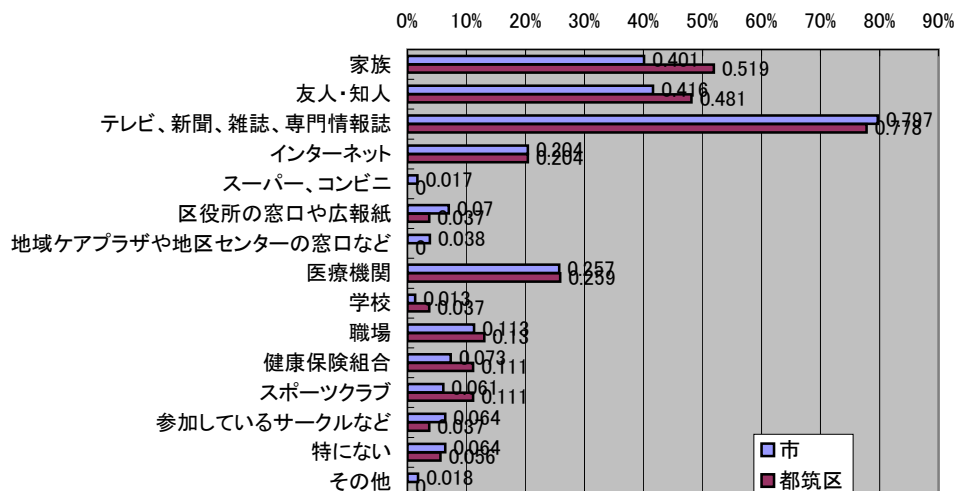
ご自分の健康状態を、今後どのようにしたいと考えていますか



ご自分の健康のため、どのようなことを行っていますか



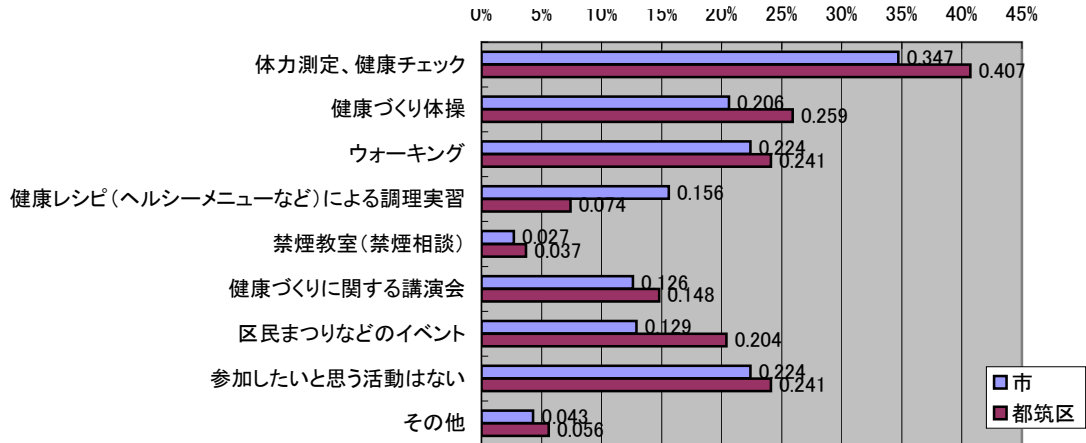
健康づくりに関する知識や情報を主にどこから入手していますか



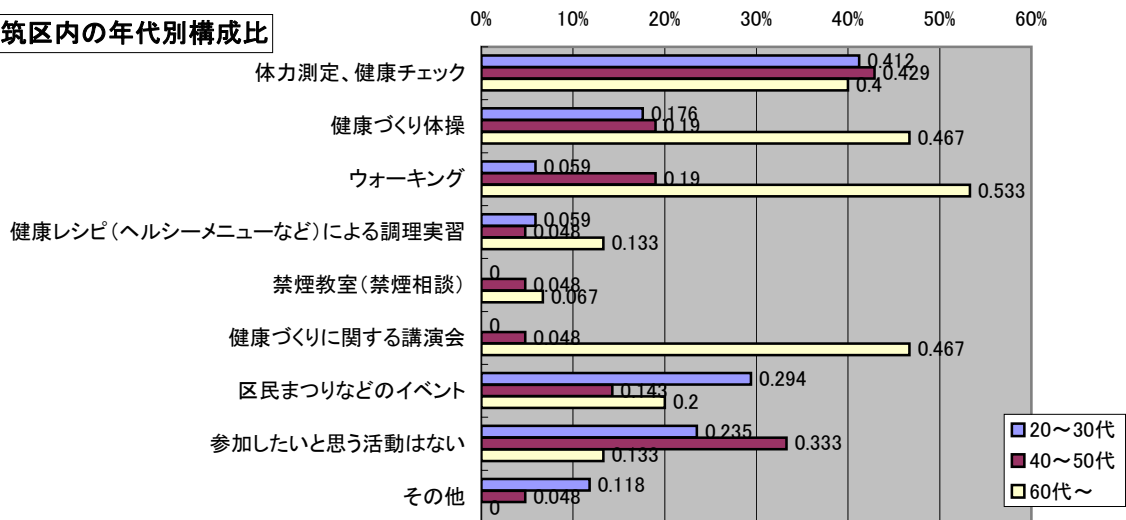
健康に関する市民意識調査 (H20) から

・20歳以上の市民3,000人(男性1,500人及び女性1,500人をそれぞれ年代別に無作為抽出、うち1,321人が回答(都筑区民=54人 男性=18人、女性=34人、不明2人))

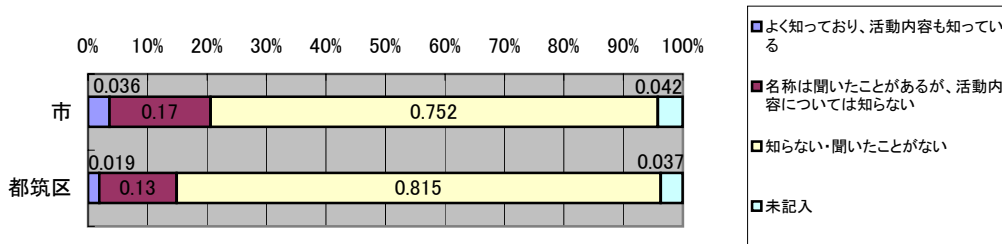
身近にどのような活動があれば参加しますか



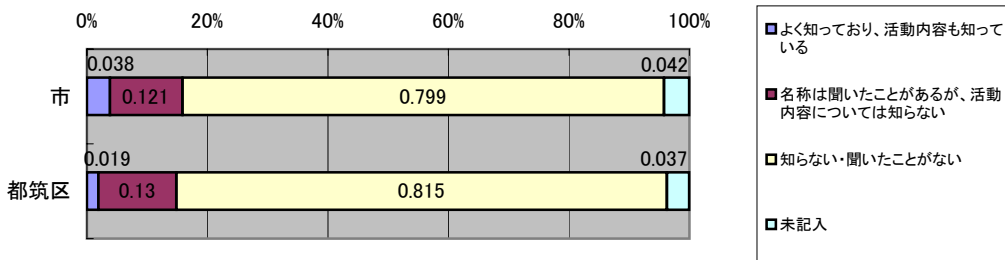
都筑区内の年代別構成比



保健活動推進員について知っていますか



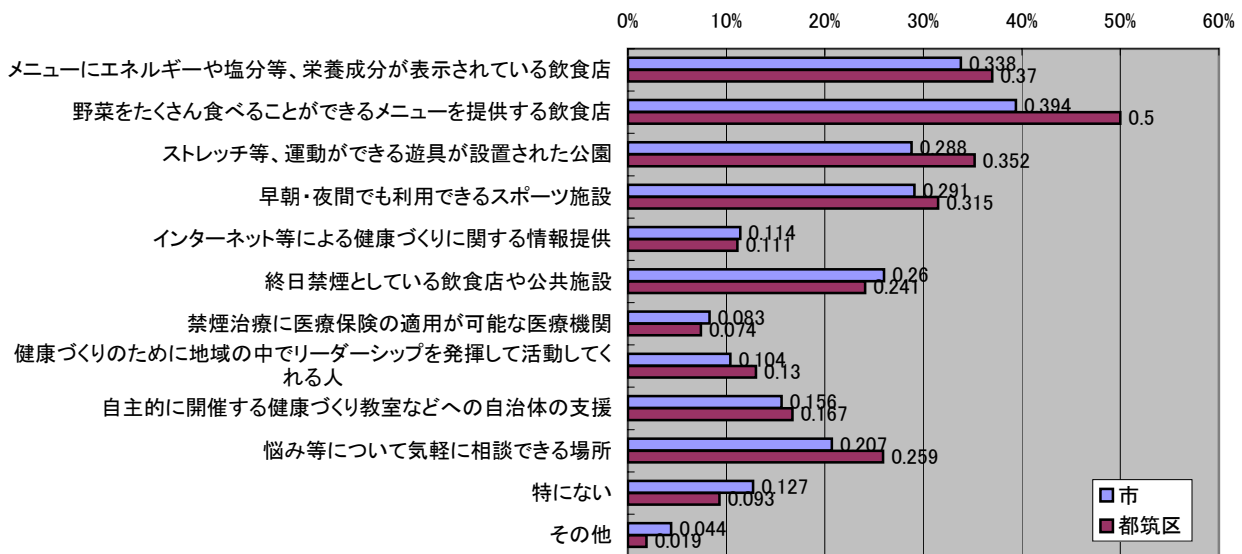
食生活等改善推進員(愛称:ヘルスマイト)について知っていますか



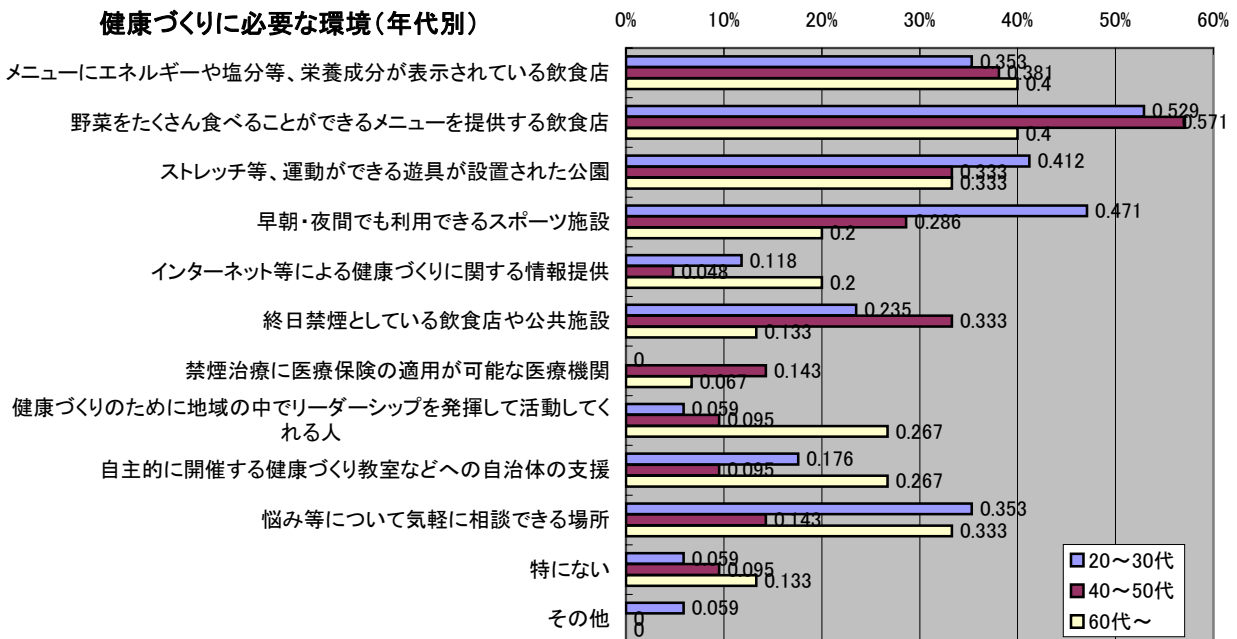
健康に関する市民意識調査 (H20) から

・20歳以上の市民3,000人(男性1,500人及び女性1,500人をそれぞれ年代別に無作為抽出、うち1,321人が回答(都筑区民=54人
男性=18人、女性=34人、不明2人)

あなたの健康づくりを進める上で、どのような環境が整備されるといいと思いますか



健康づくりに必要な環境(年代別)



保 護

- ・都筑区の被保護世帯は、654世帯、被保護人員数は、947人 保護率4.8‰（18区中18位）
- ・被保護世帯・人員数は、横ばいで推移していたが、21年度になってから増加（H22.1現在741世帯）
- ・世帯類型別被保護世帯の構成は、高齢者世帯43.3%、障害15.2%、傷病13.6%、母子11.8%

区別被保護世帯数・人員数（平成21年3月31日現在、人口は3月1日現在）

	人 口	被保護世帯数	被保護人員数	保護率
横浜市	3,654,429 人	39,358 世帯	53,502 人	14.6 (‰)
鶴見区	269,390 人	4,229 世帯	5,982 人	22.2 (‰)
神奈川区	227,978 人	2,298 世帯	2,957 人	13.0 (‰)
西区	92,398 人	1,378 世帯	1,703 人	18.4 (‰)
中区	144,311 人	7,769 世帯	8,452 人	58.6 (‰)
南区	196,391 人	4,314 世帯	5,563 人	28.3 (‰)
港南区	221,533 人	1,463 世帯	2,150 人	9.7 (‰)
保土ヶ谷区	205,458 人	2,049 世帯	3,036 人	14.8 (‰)
旭区	248,504 人	2,548 世帯	3,724 人	15.0 (‰)
磯子区	163,887 人	1,448 世帯	2,028 人	12.4 (‰)
金沢区	210,293 人	1,165 世帯	1,756 人	8.4 (‰)
港北区	323,893 人	1,758 世帯	2,359 人	7.3 (‰)
緑区	175,187 人	1,296 世帯	2,142 人	12.2 (‰)
青葉区	300,635 人	1,141 世帯	1,600 人	5.3 (‰)
都筑区	195,745 人	654 世帯	947 人	4.8 (‰)
戸塚区	271,968 人	1,800 世帯	2,737 人	10.1 (‰)
栄区	124,870 人	821 世帯	1,239 人	9.9 (‰)
泉区	155,286 人	1,545 世帯	2,348 人	15.1 (‰)
瀬谷区	126,702 人	1,682 世帯	2,779 人	21.9 (‰)

※保護率（‰）＝人口1,000人あたりの被保護人員

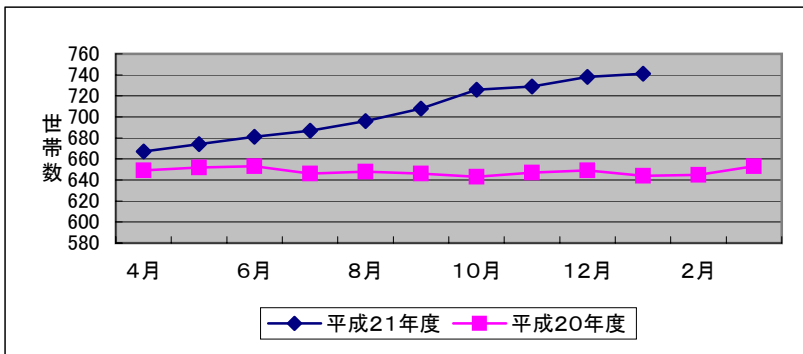
被保護世帯数・人員数の推移（各年3月31日現在、人口は3月1日現在）

	平成19年		平成20年		平成21年	
	都筑区	横浜市	都筑区	横浜市	都筑区	横浜市
人 口	183,937 人	3,607,125 人	189,216 人	3,631,773 人	195,745 人	3,654,429 人
被保護世帯数	621 世帯	36,672 世帯	661 世帯	37,535 世帯	654 世帯	39,358 世帯
被保護人員数	903 人	50,400 人	981 人	51,284 人	947 人	53,502 人
保護率	4.9 (‰)	14.0 (‰)	5.2 (‰)	14.1 (‰)	4.8 (‰)	14.6 (‰)

※保護率（‰）＝人口1,000人あたりの被保護人員

被保護世帯数推移（平成20年度・21年度比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度	667	674	681	687	696	708	726	729	738	741		
平成20年度	649	652	653	646	648	646	643	647	649	644	645	653

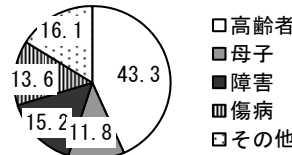


世帯類型別被保護世帯数（平成21年3月31日現在）

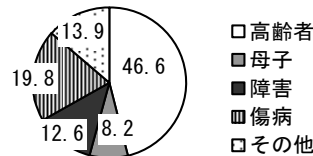
	都筑区		横浜市	
	世帯数	構成比	世帯数	構成比
高齢者	283 世帯	43.3 %	18,326 世帯	46.6 %
母 子	77 世帯	11.8 %	3,204 世帯	8.2 %
障 害	99 世帯	15.2 %	4,968 世帯	12.6 %
傷 病	89 世帯	13.6 %	7,332 世帯	19.8 %
その他	105 世帯	16.1 %	5,463 世帯	13.9 %
合 計	653 世帯	100.0 %	39,293 世帯	100.0 %

※保護停止中のものを除きます。

都筑区の世帯類型別被保護世帯



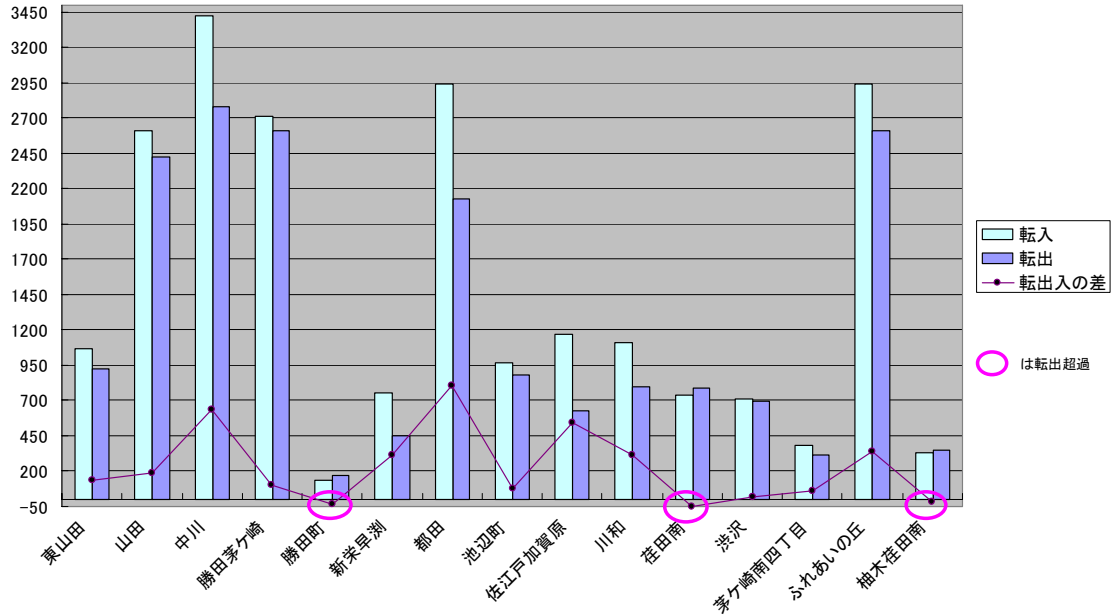
横浜市の世帯類型別被保護世帯



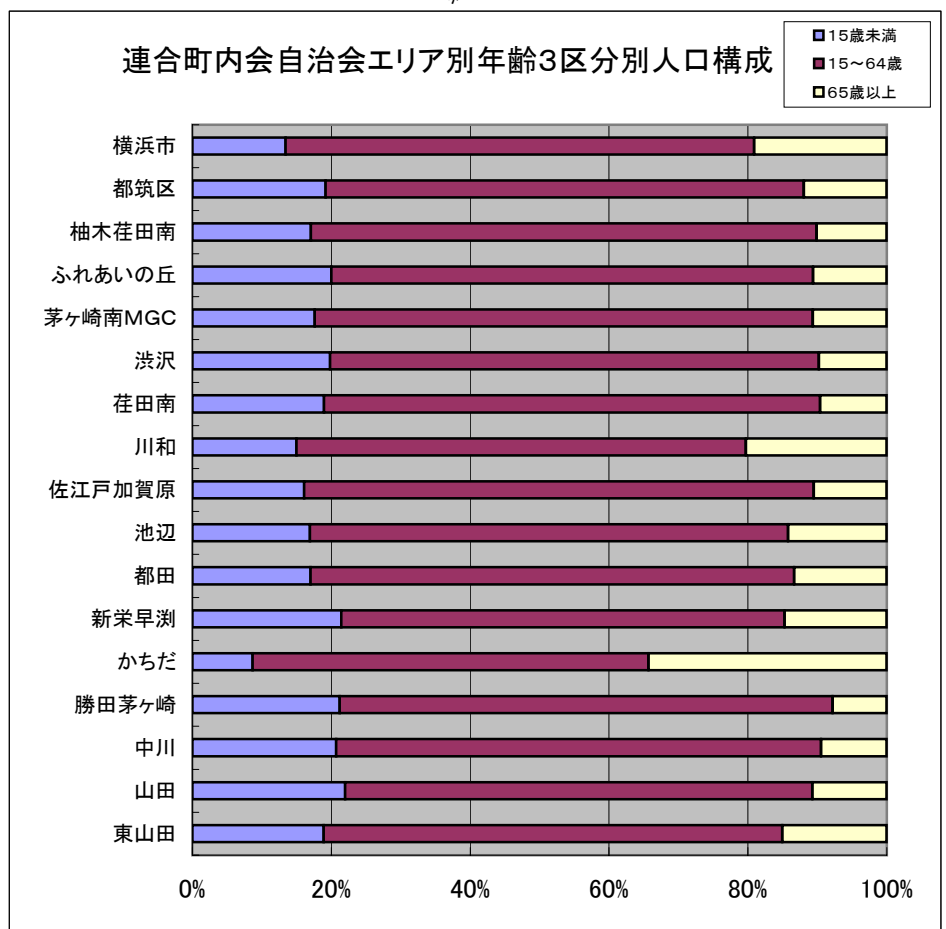
地区別データ

- ・転入・転出者が多い（人口流動が激しい）地区は、中川、ふれあいの丘、都田、勝田茅ヶ崎、山田
- ・転入超過（人口増）が多い地区は都田、中川、佐江戸加賀原、ふれあいの丘
- ・転出超過（人口減）の地区は、かちだ（勝田町）、荇田南、柚木荇田南
- ・年齢3区分別人口で、年少人口割合が高い地区は、山田、新栄早渕、中川、ふれあいの丘
老年人口割合が高い地区は、かちだ（勝田町）、川和、東山田

連合自治会町内会エリア別転出入者数(平成21年9月30日現在)



	15歳未満	15～64歳	65歳以上
東山田	18.9%	66.1%	15.0%
山田	22.0%	67.3%	10.7%
中川	20.7%	69.8%	9.5%
勝田茅ヶ崎	21.2%	71.0%	7.8%
かちだ	8.7%	57.0%	34.3%
新栄早渕	21.4%	63.9%	14.7%
都田	17.0%	69.6%	13.3%
池辺	16.9%	68.9%	14.2%
佐江戸加賀原	16.1%	73.4%	10.5%
川和	15.0%	64.7%	20.3%
荇田南	18.9%	71.5%	9.6%
洪沢	19.8%	70.4%	9.8%
茅ヶ崎南MGC	17.6%	71.7%	10.7%
ふれあいの丘	20.0%	69.4%	10.6%
柚木荇田南	17.0%	72.9%	10.1%
都筑区	19.2%	68.9%	11.9%
横浜市	13.4%	67.5%	19.1%

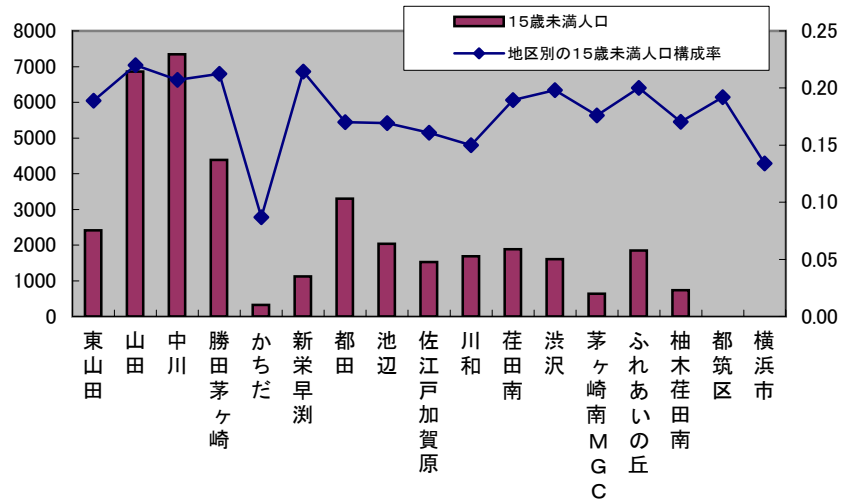


地区別データ

・山田、中川地区については、地区の人口が多いため、年少人口割合、老年人口割合に関わらず、年少人口・老年人口ともに多い

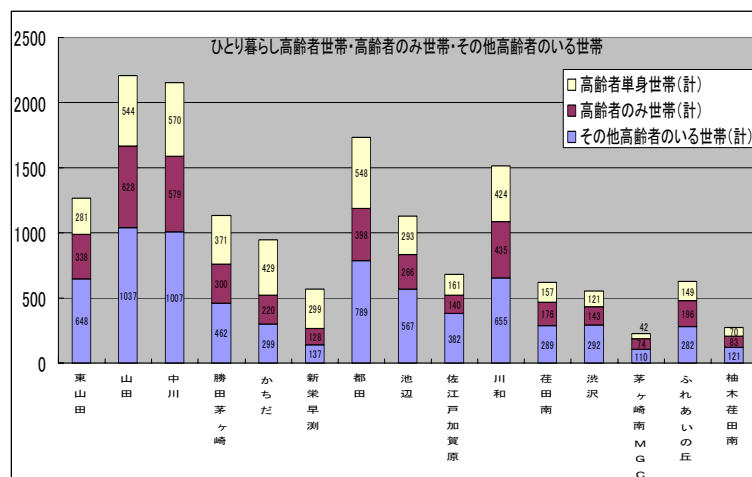
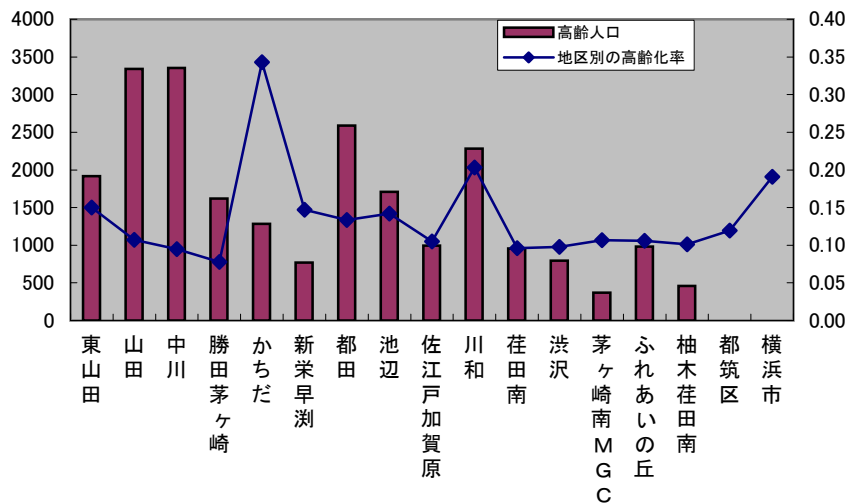
15歳未満人口の状況

	15歳未満人口	地区別の15歳未満人口構成率
東山田	2411	18.9%
山田	6861	22.0%
中川	7342	20.7%
勝田茅ヶ崎	4390	21.2%
かちだ	325	8.7%
新栄早濑	1122	21.4%
都田	3300	17.0%
池辺	2039	16.9%
佐江戸加賀原	1525	16.1%
川和	1687	15.0%
荇田南	1883	18.9%
渋沢	1607	19.8%
茅ヶ崎南MGC	641	17.6%
ふれあいの丘	1852	20.0%
柚木荇田南	731	17.0%
都筑区		19.2%
横浜市		13.4%



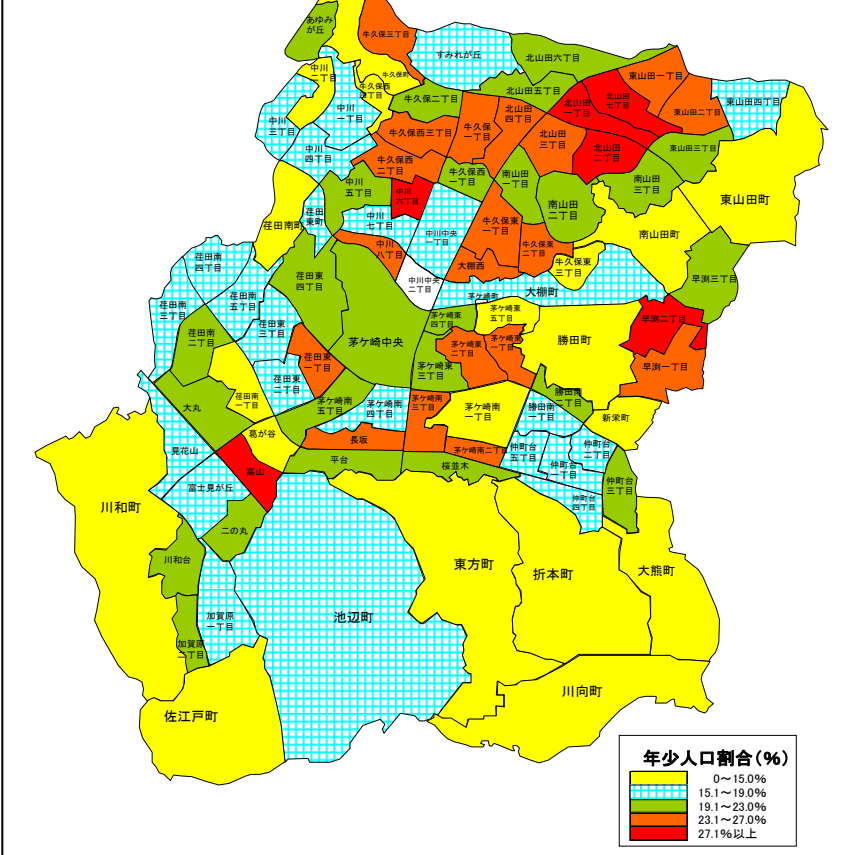
65歳以上人口の状況

	高齢人口	地区別の高齢化率
東山田	1915	15.0%
山田	3342	10.7%
中川	3356	9.5%
勝田茅ヶ崎	1619	7.8%
かちだ	1284	34.3%
新栄早濑	770	14.7%
都田	2588	13.3%
池辺	1708	14.2%
佐江戸加賀原	996	10.5%
川和	2283	20.3%
荇田南	955	9.6%
渋沢	793	9.8%
茅ヶ崎南MGC	368	10.7%
ふれあいの丘	980	10.6%
柚木荇田南	457	10.1%
都筑区		11.9%
横浜市		19.1%

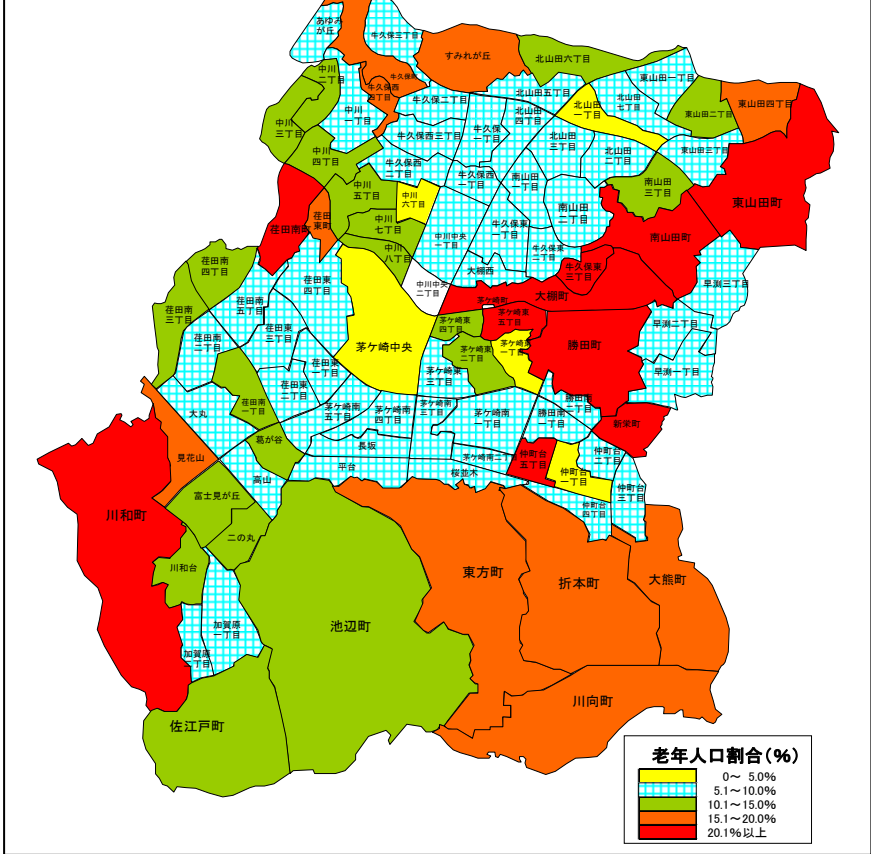


町丁別年少・老年人口割合

都筑区町丁別年少人口割合
平成20年9月30日現在



都筑区町丁別老年人口割合
平成20年9月30日現在



都筑区の現状と課題

(1) 顔と顔の見える関係づくり

都筑区の人口は、子育て世代の流入により、平成6年行政区再編成以来年平均6,000人規模で増加しており、市内で最も平均年齢が若く、15歳未満人口の比率が高い区となっている。世帯構成は、一世帯あたりの人員数は市内では最も多いが、一方で、核家族の割合が泉区に次いで高く、一世帯あたりの人員数は年々減少している。今後も、核家族化とともに、「夫婦と子ども」世帯が減少し、「夫婦のみ」や「ひとり暮らし」世帯が増加していくなど、世代にかかわらず、世帯が小規模化していく傾向にある。世帯構成の変化に伴い、これまでの家族の担ってきた育児や介護などの機能が低下する中、家族以外の人々の支援が必要な人が増えている。また、人口流動性が非常に高いことや近隣との付き合い方など価値観の多様化などにより、地域のつながりが希薄化している。若い世代や単身世帯など近所づきあいのほとんどない人も見られ、家族以外の人々の支援が必要な人や地域で孤立していると考えられる人がますます把握しにくくなっており、意識的に顔見知りの関係や気軽に声をかけられる関係をつくっていくことが必要となっている。

特に、自治会町内会は、地域の防犯、防災、福祉等の様々な身近な生活課題を共同で解決する地域を基盤とした住民組織であるが、若い世代の関心の低下や集合住宅居住者の増加などによる未加入世帯の増加が課題となっている。

(2) 担い手の拡充とボランティア風土づくり

市民活動団体やボランティア活動者は年々増えてはいるが、自治会町内会や地区社協等の担い手の不足や固定化が課題となっている。また、今後の少子高齢化の進展によるボランティアに対するニーズの高まりが進むと考えられる。今後、活動への参加意向が3人に1人との調査結果もあり、地域における活動の担い手のより一層の掘り起こしを図り、ボランティア活動者の拡充や風土づくりを図っていくことが必要となっている。

(3) 必要な人に支援が届けられる仕組みづくり

区役所、地域包括支援センターなど地域の身近な相談機関・専門機関や民生委員・児童委員、保健活動推進員等地域の活動者の認知度が低く、また、どのような相談を受けられるのかわからない人や困っていることをうまく表現できない人もいることから、このような支援が必要な人を相談機関や専門機関、適切なサービス提供につなげられる仕組みづくりが必要となっている。

(4) 子育て支援と家庭・学校・地域の連携

市内で最も平均年齢が若く、15歳未満人口の割合が最も高い区となっている。

家族機能の低下、地域のつながりの希薄化、晩婚化や非婚者の増加など、家庭で子育てをしている保護者は、子育てが孤立し、負担感や様々な悩み、不安をもちやすい状況となっている。

こうした子育て家庭に対して、地域の保育園や幼稚園、子育て関係機関・市民活動団体が、その機能・資源を有効に活用して子育て支援事業を充実することが必要となっている。

また、ひとり親世帯、障害児とその家庭、不登校やひきこもり、児童虐待など配慮を要する子どもや家庭への適切な支援が必要となっている。

こどもを取り巻く環境の変化の中で、こどもが健やかに成長し、自立心や社会性が育まれるよう、こどもの地域社会への参加を促進するとともに、これまで以上に家庭・学校・地域の連携を一層緊密なものとし、自治会町内会や市民活動団体、企業など地域の力を結集してこどもの育つ環境を整えることが求められている。

(5) 高齢者への支援

65歳人口の割合が、市内で最も低い区となっているが、今後は急速に少子高齢化が進み、2030年には21.8%と現在の約2倍になると予測されている。ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯は年々増加傾向にあり、支援が必要とされる高齢者の地域での見守りが必要となっている。

都筑区は転入者が多く、65歳以上人口、75歳以上人口における転入高齢者の割合は市内で最も高くなっているが、特に高齢者の場合、転居による環境の変化に適応しづらく、閉じこもり・孤立しがちな生活から認知症や寝たきりに移行することが懸念される。要介護認定者も年々増加傾向にあることから、高齢者一人ひとりが介護予防・認知症予防の必要性に気づき、日常生活の中で自ら介護予防・認知症予防に取り組み、継続できる仕組みづくりが必要となっている。

また、高齢者の中には自治会町内会や老人クラブの友愛活動、市民活動などボランティア活動に幅広く取り組んでいる人も少なくないが、一方で、高齢者の4割以上が地域とのかかわりが薄いことや老人クラブの加入率の低下もあることから、高齢者の知識や経験、意欲を活かした社会参加・地域貢献活動等生きがい活動の促進が求められている。

(6) 障害児・者への支援

身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神保健福祉手帳所持者ともに年々増加している。うつ、統合失調症などの精神障害者も増加傾向にある。アンケート調査では、「自分の意思が伝わらない」「周囲の理解がない」と感じる人の割合が多く、障害に対する正しい理解を深めることが必要となっている。また、障害者の30%以上の人々が「災害時の安全確保が不安」と考えており、地域での災害時の要援護者支援の取り組みや、障害のある人や家族が地域で行われる防災訓練に参加しやすい環境づくり等が求められている。さらに、地域との付き合いについては、「地域イベントを楽しむ」「スポーツ等一緒に活動する」「子ども会・自治会活動を一緒にする」等今後の意向の割合が多いなど地域との交流機会が障害者から求められている。

(7) 都筑区の特性を活かした健康づくり

都筑区の平均寿命は、男性が80.7歳、女性が87.2歳で、全国的にも非常に長寿で、自殺者も人口10万人対では18区中第18位と非常に少ない地域となっている。

アンケート調査では、活動への参加意向としては、「体力測定、健康チェック」「健康体操」「ウォーキング」があげられており、特に「野菜をたくさん食べることができるメニューを提供する飲食店」を高くなっていることから、都筑区の特徴となる公園や都筑野菜などを生かした健康づくりが求められている。